

高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第5冊

奥の坊遺跡群Ⅴ
(奥の坊遺跡Ⅰ・Ⅱ区)

2006年12月

高松市教育委員会



I～Ⅳ区全景



SP21086出土土器

例 言

1. 本報告書は、高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第5冊で、高松市高松町に所在する奥の坊遺跡Ⅰ・Ⅱ区（おくのほういせきⅠ・Ⅱく）の報告を収録した。
2. 発掘調査地ならびに調査期間は次のとおりである。
奥の坊遺跡 調 査 地：高松市高松町奥ノ坊
 発掘調査：平成10年9月14日～11年2月19日
 整理作業：平成18年1月4日～12月28日
3. 発掘調査から整理作業及び報告書編集まで高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。
4. 発掘調査から整理作業、報告執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順、敬称略）
香川県教育委員会、香川県埋蔵文化財センター（当時（財）香川県埋蔵文化財調査センター）、古高松土地改良区、地元自治会、地元水利組合
5. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
信吉純恵、大野宏和、川部浩司、増田ゆず（当時徳島文理大学）、末光甲正（讃岐文化遺産研究会）
6. 本調査に関連して、以下の業務を委託発注により実施した。
航空写真測量 アジア航測株
遺物写真撮影 西大寺フォト
7. 挿図として、国土地理院発行1/25,000地形図「高松北部」「高松南部」「五剣山」「志度」を一部改変して使用した。
8. 本報告の高度値は海拔高を表し、方位・座標値は国土座標第Ⅳ系（日本測地系）の北を示す。
9. 本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物跡 SD：溝 SH：竪穴住居跡 SK：土坑 SO：落ち込み SP：柱穴
NR：旧河道
10. 本書で使用した図版の縮尺は注記の無い場合は次のとおりである。
遺構：1/40 土器：1/4 石器・金属製品：1/2
11. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 事業全体の経緯と経過	1
第2節 奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過	2
第3節 整理作業の経過	3

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 I区の調査	7
第2節 II区の調査	18

第4章 まとめ

第1節 遺構の変遷について	68
第2節 高松平野における石器素材剥片	71

観察表	75
-----	----

写真図版	83
------	----

報告書抄録	95
-------	----

挿図目次

第1図 高松市東部運動公園(仮称)整備事業発掘調査地	2	第48図 SK21001平・断面図	43
第2図 奥の坊道路Ⅰ・Ⅱ区平面図	3	第49図 SK21005平・断面図	43
第3図 周辺道路分布図(S-1/25,000)	6	第50図 SK21005出土遺物実測図	44
第4図 Ⅰ区第2層調査地平面図	8	第51図 SK21006平・断面図	45
第5図 Ⅰ区第1層調査地平面図	9	第52図 SK21006出土遺物実測図	45
第6図 Ⅰ区北壁土層断面図	10	第53図 SK21007平・断面図	45
第7図 Ⅰ区東壁土層断面図	11	第54図 SK21008平・断面図	46
第8図 SH2001平・断面図	12	第55図 SK21008出土遺物実測図	46
第9図 SK12001平・断面図	13	第56図 SK21009平・断面図	47
第10図 SK12002平・断面図	13	第57図 SK21010平・断面図	47
第11図 SK12003平・断面図	13	第58図 SK21010出土遺物実測図	48
第12図 SK12004平・断面図	13	第59図 SK21011平・断面図	49
第13図 SK12005平・断面図	14	第60図 SK21011出土遺物実測図	50
第14図 SK12005出土遺物実測図	14	第61図 SK21012平・断面図	50
第15図 SK12006平・断面図	14	第62図 SK21012出土遺物実測図	50
第16図 SK12007平・断面図	14	第63図 SK21013平・断面図	51
第17図 SB11001平・断面図	15	第64図 SK21013出土遺物実測図	51
第18図 SK11001平・断面図	16	第65図 SK21014平・断面図	51
第19図 SK11002平・断面図	16	第66図 SK21014出土遺物実測図	52
第20図 SK11002出土遺物実測図	16	第67図 SK21015平・断面図	53
第21図 SK11003平・断面図	17	第68図 SK21016平・断面図	53
第22図 SO11001出土遺物実測図	17	第69図 SK21016出土遺物実測図	54
第23図 Ⅱ区遺構平面図	19	第70図 SK21017平・断面図	55
第24図 Ⅱ区北壁土層断面図①	21	第71図 SK21017出土遺物実測図	56
第25図 Ⅱ区北壁土層断面図②	22	第72図 SK21018平・断面図	56
第26図 包含層出土遺物実測図①	23	第73図 SK21018出土遺物実測図	56
第27図 包含層出土遺物実測図②	24	第74図 SK21019平・断面図	57
第28図 包含層出土遺物実測図③	25	第75図 SK21020平・断面図	57
第29図 包含層出土遺物実測図④	26	第76図 SK21021平・断面図	58
第30図 包含層出土遺物実測図⑤	27	第77図 SK21022平・断面図	58
第31図 包含層出土遺物実測図⑥	28	第78図 SK21023平・断面図	58
第32図 包含層出土遺物実測図⑦	29	第79図 SK21024平・断面図	58
第33図 包含層出土遺物実測図⑧	30	第80図 SK21025平・断面図	59
第34図 SH21001平・断面図	31	第81図 SK21025出土遺物実測図	59
第35図 SH21002・21003平・断面図	32	第82図 SK21026平・断面図	59
第36図 SH21002・21003出土遺物実測図	33	第83図 SK21027平・断面図	60
第37図 SB21001平・断面図	34	第84図 SK21028平・断面図	61
第38図 SB21001出土遺物実測図	35	第85図 SK21028出土遺物実測図	62
第39図 SB21002平・断面図	36	第86図 SK21028内ピット出土遺物実測図	62
第40図 SB21003平・断面図	37	第87図 SK21029平・断面図	63
第41図 SB21004平・断面図	38	第88図 SD21001平面図及び断面図	64
第42図 SB21005平・断面図	39	第89図 SD21002平・断面図	64
第43図 SK21006出土遺物実測図	39	第90図 SK21004平面図及び断面図	65
第44図 SK21001平・断面図	40	第91図 SD21004出土遺物実測図	65
第45図 SK21001出土遺物実測図	41	第92図 SD21005平・断面図	66
第46図 SK21002平・断面図	42	第93図 SD21006平・断面図	66
第47図 SK21003平・断面図	42	第94図 SP21086平・断面図	66

第95図	SP21086出土遺物実測図	67
第96図	ビット出土遺物実測図	67
第97図	弥生時代中期前半の遺構平面図	68
第98図	古代の遺構平面図	69

第99図	近世以降の遺構平面図	70
第100図	高松平野出土の大型素材剥片①	72
第101図	高松平野出土の大型素材剥片②	73

写真図版目次

写真1	調査区全景(南から)	80	写真24	SK21010土器出土状況(北東から)	82
写真2	I区第2遺構面全景(南西から)	80	写真25	SK21011土器出土状況(北東から)	83
写真3	I区第2遺構面完掘状況(南西から)	80	写真26	土坑群完掘状況(北西から)	83
写真4	II区完掘状況(北西から)	80	写真27	土坑群完掘状況(北東から)	83
写真5	SH12001完掘状況(北から)	80	写真28	SK21013土器出土状況(南西から)	83
写真6	SB11001完掘状況(南から)	80	写真29	SK21014土器出土状況(北から)	83
写真7	SH21001完掘状況(北東から)	80	写真30	SK21016土器出土状況(南東から)	83
写真8	SH21001完掘状況(北西から)	80	写真31	SK21016土器出土状況(西から)	83
写真9	SH21002・21003完掘状況(北から)	81	写真32	SK21017完掘状況(南東から)	83
写真10	SH21002・21003完掘状況(南から)	81	写真33	SK21018土器出土状況(西から)	84
写真11	SB21001完掘状況(西から)	81	写真34	SK21018土器出土状況(東から)	84
写真12	SB21001完掘状況(北西から)	81	写真35	SD21001完掘状況(北から)	84
写真13	SB21003完掘状況(南から)	81	写真36	SP21086土器出土状況(北西から)	84
写真14	SK21001土器出土状況(北西から)	81	写真37	SP21086土器出土状況(北西から)	84
写真15	SK21001土器出土状況(北東から)	81	写真38	SP21086土器出土状況(北から)	84
写真16	SK21001土器出土状況(南から)	81	写真39	SP21086土器出土状況(北から)	84
写真17	SK21001土器出土状況(東から)	82	写真40	作業風景(西から)	84
写真18	SK21001土器出土状況(東から)	82	写真41	出土遺物①	85
写真19	SK21005土器出土状況(北東から)	82	写真42	出土遺物②	86
写真20	SK21005土器出土状況(西から)	82	写真43	出土遺物③	87
写真21	SK21005土器出土状況(北から)	82	写真44	出土遺物④	88
写真22	SK21008完掘状況(北から)	82	写真45	出土遺物⑤	89
写真23	SK21010土器出土状況(北から)	82	写真46	出土遺物⑥	90

第1章 調査の経緯と経過

第1節 事業全体の経緯と経過

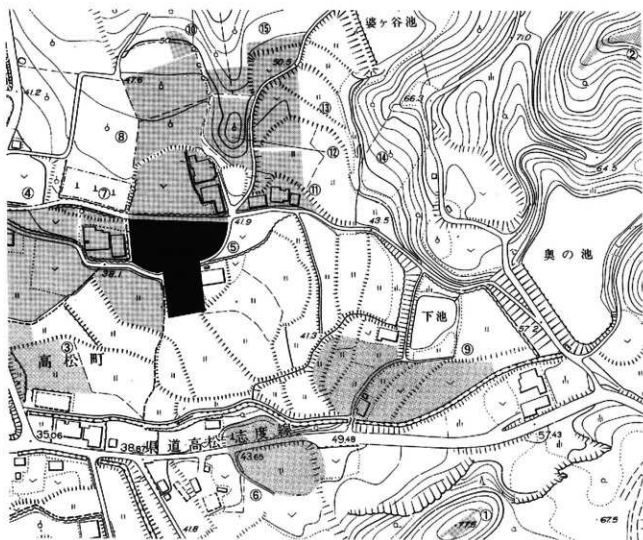
高松市では全市的なレベルでまとまった総合的なスポーツレクリエーション活動拠点として高松市東部運動公園（仮称）の整備が計画され、その基本構想・基本計画が平成5年度に策定された。運動公園整備予定地となったのは高松市の東部の丘陵地帯で、高松町の奥ノ坊・大空・金川湖地区で、総事業面積は47.2haに及ぶ広大なものであった。整備予定地には香川県の弥生後期を代表する大空遺跡をはじめ、奥ノ坊古墳及びスベリ古墳の存在が知られており、この他にも未周知の埋蔵文化財が所在する可能性は高いと考えられた。このため工事に先立ち整備予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて都市開発部公園緑地課と協議を行い、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況を明らかにすることで合意した。

高松市教育委員会では、平成7年度から用地買収の完了した土地について試掘調査を実施した。平成7年度には大空古墳、金川湖古墳、奥ノ坊2号墳（その後の本調査で3・4号墳も発見）を発見した。これを受け、再度都市開発部公園緑地課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、工事の前に記録保存を行うことで合意した。試掘調査はその後も継続して行い、平成9年度までに整備予定地内に203箇所のトレンチを掘削した。この調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地であった大空遺跡、奥ノ坊古墳、スベリ古墳の3遺跡については、既にほとんど消滅しており事前の保護措置の必要がないことが判明した。一方、新たに奥の坊権現前遺跡、奥の坊遺跡、奥の坊奥池西遺跡、大空北遺跡の4集落遺跡が発見された。新たに発見された遺跡の総面積は約30,000㎡である。これらの遺跡についても順次都市開発部公園緑地課と協議を行い、工事前に記録保存を行うことで合意した。

一方、運動公園整備工事は平成9年度から洪水調整池の工事を行い、平成12年度後半から全体の造成工事を行うことが予定されていた。このため洪水調整池部分の発掘調査を早期に着手し、平成12年度前半までに全調査を終えることとした。調査対象地は遺跡総面積30,000㎡のうち現道及び現水路を除く約26,910㎡とした。その後、工事計画が変更になり、平成14年度後半から全体造成工事が開始されることになり、発掘調査についても平成14年度前半まで期間を延長できることとなった。このため、当初は掘削深度が深く、調査面積も広大で、調査期間も短いことから、掘削業務を委託発注して調査を実施していたが、平成11年度より比較的掘削深度の浅い部分については直営で調査を行った。また、平成15年1月には運動公園整備工事に使用する粘土を新田町久米池から採取することとなり、同地に所在する久米池遺跡についても工事に合わせて調査を実施した。

表1 東部運動公園（仮称）整備事業に伴う発掘調査経過

番号	遺 跡 名	調査区	調 査 期 間	調査面積 (㎡)	調査方法	報告書
	試掘調査	全城	1995.8.4 ~ 1997.10.8	2,997	直営	
①	大空古墳	全城	1996.2.14 ~ 1996.2.23	150	直営	I (1999.3刊)
②	金川湖古墳	全城	1996.2.23 ~ 1996.3.8	300	直営	
③	奥の坊権現前遺跡	I ~ III	1997.2.10 ~ 1997.3.24	1,560	委託	II (2004.3刊)
④	奥の坊権現前遺跡	IV ~ VI	1997.10.7 ~ 1998.3.13	5,200	委託	
⑤	奥の坊遺跡	美作郡 III・IV	1998.9.14 ~ 1999.2.19	4,900	委託	本書 未刊
⑥	大空北遺跡	全城	1999.4.16 ~ 1999.6.4	2,200	直営	III (2004.12刊)
⑦	奥の坊遺跡	V	1999.5.28 ~ 1999.7.13	700	直営	未刊
⑧	奥の坊遺跡	VI・VII	1999.11.10 ~ 2000.3.3	2,300	委託	未刊
⑨	奥の坊奥池西遺跡	全城	2000.4.17 ~ 2000.7.25	3,600	直営	III (2004.12刊)
⑩	奥の坊遺跡	VIII	2000.10.2 ~ 2000.12.28	300	直営	未刊
⑪	奥の坊遺跡	IX	2000.10.5 ~ 2001.1.12	1,180	委託	未刊
⑫	奥ノ坊古墳群（測量）	全城	2001.6.5 ~ 2001.6.27	-	直営	IV (2006.3刊)
⑬	奥の坊遺跡	X	2001.8.27 ~ 2002.1.18	1,320	委託	未刊
⑭	奥ノ坊古墳群	全城	2001.9.4 ~ 2001.11.28	1,020	直営	IV (2006.3刊)
⑮	奥の坊遺跡	XI	2002.4.2 ~ 2002.7.5	1,180	直営	未刊
	久米池遺跡	全城	2003.1.8 ~ 2003.1.21	200	立会	IV (2006.3刊)



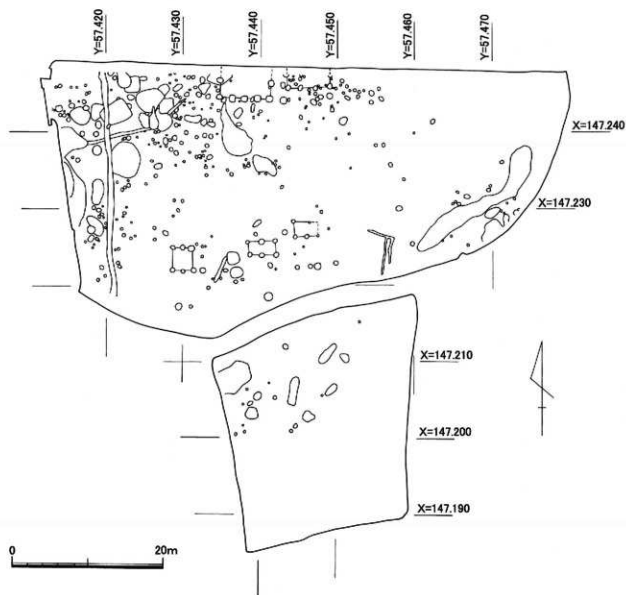
第1図 高松市東部運動公園(仮称)整備事業発掘調査地

第2節 奥の坊遺跡の発掘調査の経緯と経過

運動公園予定地内では、平成7年度から用地買収の進捗状況に応じて試掘調査を実施してきた。奥の坊遺跡は平成8年度の試掘調査によりその所在が明らかになったもので、遺跡は事業地の南緩斜面一体に広がりを見え、その面積は約12,000㎡にのぼることが判明した。

遺跡の南西部が洪水調整池工事予定地内に含まれ、平成11年度工事着手予定であったことから、平成10年度末までの発掘調査が望まれた。また、運動公園全体の造成が平成12年度下半期に予定されていたことから、その他の部分についても早期の調査が望まれた。都市開発部公園緑地課と協議を行った結果、遺跡の南西部を平成10年度、北東部を平成11年度で調査を実施することで合意した。しかしながら、平成9年度において、一部事業計画の変更があり、洪水調整池は平成12年度、造成は平成14年度下半期着手となることが決定したことから、平成10年度から5ヵ年をかけて発掘調査を実施することとなった。また、調査費用軽減のため一部直営方式により調査を実施した。10年度にⅠ～Ⅳ区、11年度にⅤ～Ⅶ区、12年度にⅧ～Ⅹ区、13年度にⅪ区、14年度にⅫⅠ区の調査を実施した。

本報告書で掲載したⅠ・Ⅱ区を含むⅠ～Ⅳ区の調査は、平成10年9月14日～11年2月19日に実施した。調査面積は4,900㎡である。



第2図 奥の坊遺跡 I・II 区平面図

第3節 整理作業の経過

東部運動公園（仮称）整備に伴う発掘調査は平成14年度まで行われた。このため、各調査年度の翌年度に土器洗浄や接合等の基礎整理を行うのみで、本格的な整理作業は全調査終了後の平成14年度後半から実施した。

奥の坊遺跡 I・II 区の整理作業は、平成11年度において基礎整理を実施し、本格的な整理作業は平成18年1月から12月において実施した。以下に工程表を掲載する。

表2 奥の坊遺跡 I・II 区整理作業工程表

	平成11年度	平成17年度			平成18年度								
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
基礎整理													
実 測													
トレース													
レイアウト													
報告書編集													

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県のほぼ中央に位置し、瀬戸内海に面している。高松市域の大部分は高松平野によって占められている。平野の境界を画する低位山塊及び屋島、紫雲山等の独立山塊は、侵食の容易な花崗岩層（三疊層群）が風化侵食に抵抗の強い安山岩層に覆われていたことによって侵食崩析から取り残されて形成されたメサまたはビュートと呼ばれるもので、讃岐ののどかな田園風景の象徴の一つである。

高松平野は四国中央部に東西に連なる讃岐山脈に端を発する中小河川により形成された沖積地である。高松平野には、西から本津川、香東川、春日川、新川といった河川が瀬戸内海に向けて北流している。本調査区の位置する古高松（高松町・新山町・春日町）は、この中の春日川、新川にほど近い地域である。春日・新川の両河川は水量に乏しく、平野中央部を流れる香東川のように大規模な扇状地は見られない。また、古高松の北部は、江戸時代初期の干拓により陸地化されたものであり、寛永10（1633）年の『讃岐国絵図』によると、その頃の海岸線はかなり内陸に入り込んでおり、屋島は島として描かれている。北を屋島に面した海岸（旧地形による）、東を立石山山塊、南を久米山丘陵、西を春日川によって限られた高松平野北東部の一角は、古代・中世を通じて「高松」（讃岐国山田郡高松郷）と呼ばれたが、天正16（1588）年の生駒親正による高松城築造以後は、城下高松に対して「古高松」と呼称されてきた。江戸時代以前の古高松の地形が推定可能な史料として香西成資が古老の話を元に享保4（1719）年に編纂した『南海通記』がある。その中に天正10（1582）年頃の地形として「…春日ノ里ニ至ル、此所ハ屋島山、石清尾山両受ノ間、入海ニテ山田郡小山ノドマデ潮サシ来ル、遠干湯ナ春日里ト木太郷ノ間、海ノ中道アツテ通用ス。…」との記述がある。ここでいう小山とは、現在の高松市新山町小山にあたと考えられ、この小山近辺まで海岸線あるいは河口が湾状に入り込んでいたと想定できる。

東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として発掘調査が行われた「奥ノ坊」は高松町の北東端にあたり、地形的には旧高松市と旧幸札町（現高松市幸札町）にまたがる標高100～200mの山塊の、西側低丘陵地の尾根及び谷部に位置する地域である。現在はかなり内陸的な様相を示すが、上記の推定海岸線から考えると海岸から1～1.5kmと非常に近かったと推測される。

第2節 歴史的環境

高松平野では、昭和60年代以降、高松東道路建設、太田第2十地区画整理事業、高松空港跡地再開発などの大規模プロジェクトに伴い発掘調査件数が増大したことによって発掘数は飛躍的に増大し、高松平野の形成過程や集落の様相が次第に明らかになってきている。今回の発掘調査事業地は高松平野の東部にあたり、平野北西部に位置する石清尾山塊と共に遺跡の多い地帯として早くから認識されてきた地域である。

当事業地周辺の遺跡の大部分は弥生時代から古墳時代にかけてのものであるが、旧石器・縄文時代の遺物・遺構も若干知られている。旧石器時代については、本格的な遺構は知られていないが、久米池南遺跡（東山崎町）においてナイフ型石器が出土している。縄文時代については、小山・南谷遺跡において落とし穴状の土坑が14基検出されているほか、旧河道中から縄文土器が出土している。当事業地においても奥の坊奥池西遺跡において落とし穴と考えられる遺構が検出され、縄文土器が出土しており、小山・南谷遺跡との関連が注目される。一方、平野中央部の発掘調査においては旧河道からの晩期の上層の出土例は多いが、井手東I遺跡において地表面下約70cmからアカホヤの堆積層が確認されていることが特筆される。

弥生時代前期の遺跡としては、平野中央部では二重の環濠が検出された汲仏遺跡等が知られているが、平野東部では現在のところ発見されていない。中期前半では当事業で確認された奥の坊遺跡が知られている。南向きの緩斜面に営まれた集落で、多量の土器・石器に伴い分銅形土製品や擬朝鮮系無文土器等も出土している。また、丘陵部を東に越えた羽間遺跡では細形銅剣が出土している。中期後半では久米山東側丘陵上に立地する高地性集落の久米池南遺跡がある。後期前半では既に消滅してしまっていたが、香川県の弥生時代後期前半の標式土器が出土したことで知られる大空遺跡が当事業地内に所在した。また、

当事業地内の奥の坊権現前遺跡をはじめ、スベリ山南遺跡、南谷遺跡、小山・南谷遺跡がある。いずれの遺跡においても製塩土器が多量に出土することが知られている。後期後半では漆を採取していたと考えられる原中村遺跡があげられる。

古墳時代の集落遺跡は周辺では見られず、平野中央部においてもあまり知られていない。一方、古墳は多く築造されている。高松平野では積石塚として有名な石清尾山古墳群があるが、平野東部では盛土・古墳しか見られない。平野東部では諏訪神社古墳が古式の古墳であることが知られている。また、前期の高松市茶臼山古墳は全長60mの前方後円墳で、後円部には竪穴式石室が2箇所設けられており、第1主体からは鯨形石2点、画文帯神獸鏡1点などが出土している。中期では屋島の北端に所在する長崎鼻古墳において、阿蘇滑結凝灰岩製の石棺が出土している。後期では副室構造の小山古墳、天井石が巨大な1石の石材で構築された山古墳、T字型の石室を持つ瀬本神社古墳等特異な古墳が多い。中でも香川県で唯一石棚を持ち、畿内型の亀甲型陶棺を埋葬主体とし、承盤付銅鐙を副葬する久本古墳の存在は特筆できる。その他、小規模な長尾古墳群、岡山古墳群、岡山小古墳群、漆谷古墳群、平尾古墳群といった群集墳も見られる。当事業地においても、奥ノ坊古墳群、大空古墳、金川湖古墳の調査が実施されているが、いずれも損壊が著しく、詳細は不明である。

古代の遺跡では、『日本書紀』にも記載されている古代山城屋嶋城の存在が知られている。近年の調査で城門遺構や石垣が検出されている。また新田本村遺跡と小山・南谷遺跡では高松平野の条里地割に先行し、方向の異なる条里地割が発見されている。この先行条里地割が当事業地内の奥の坊権現前遺跡及び奥の坊遺跡においても確認されている。古代寺院としては山下庵寺がある。古式の瓦を出土していることが知られているが、発掘調査は行われていないので詳細は不明である。また屋島北嶺の千間堂において10～11世紀と考えられる礎石建物及び集石遺構が検出されており、屋島寺の前身遺構と考えられている。

中世に入ると高松平野でも武士の台頭が目立つ。特に中央政權との関わりも多く、数多くの戦いが行われている。まず、源氏と平氏が屋島で戦い、那須与一や佐藤兼信の戦いぶりが『平家物語』によって今日まで伝えられている。南北朝期には讃岐の守護となった高松（舟木）頼重が喜岡城を築城するが、北朝方の細川定禪の攻撃により落城した。その後喜岡城は秀吉の四国征伐時にも落城している。中世の遺構としては、中世末～近世初頭にかけたの溝で区画された屋敷が検出された川南・西遺跡があげられる。当事業地内では中世の遺物は出土するものの、遺構としては奥の坊奥池西遺跡において溝が検出された程度である。

近世の遺跡としては、近年高松城周辺で数多くの調査が実施されており、武家屋敷等が検出されている。平野東部では、東山崎・水山遺跡や川南・東遺跡等の農村が見られる。当事業地内では奥の坊遺跡において一部近世の屋敷敷地を検出しているにすぎない。

参考文献

高松郷土誌編集委員会 1977『高松郷土誌』

藤井雄三・山本英之 1989『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会

蔵本晋司・森下友子 1992『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1冊 東山崎・水山遺跡』香川県教育委員会

片桐孝治 1994『国道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 小山・南谷遺跡 平成5年度』香川県教育委員会

山元敏哲 1995『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4冊 井手東1遺跡』高松市教育委員会

片桐孝治 1997『国道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 小山・南谷遺跡Ⅰ』香川県教育委員会

大嶋和則 1999『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ』高松市教育委員会

大嶋和則 2000『都市計画道路宮町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第2冊 川南・東遺跡』高松市教育委員会

木下晴一 2000『国道高松志度線緊急整備工事および県立医療短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 原中村遺跡』香川県教育委員会

山元敏哲 2003『史跡天然記念物屋島・史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ』高松市教育委員会

大嶋和則 2004『高松市指定史跡 久本古墳』高松市教育委員会

大嶋和則 2006『高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ』高松市教育委員会

山元敏哲・末光平正 1999『都市計画道路宮町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第1冊 川南・西遺跡』高松市教育委員会

中西克也 2006『都市計画道路宮町新田線埋蔵文化財発掘調査報告書 第3冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会



第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)

- | | | | | |
|------------|----------|--------------|-------------|--------------|
| 1 奥の坊権現前遺跡 | 2 奥の坊遺跡 | 3 大空北遺跡 | 4 奥の坊奥池西遺跡 | 5 奥ノ坊1号墳(消滅) |
| 6 奥ノ坊2~4号墳 | 7 金川洲古墳 | 8 大空古墳 | 9 スベリ古墳(消滅) | 10 大空遺跡(消滅) |
| 11 大空南遺跡 | 12 屋嶋城跡 | 13 喜岡城(高松城)跡 | 14 羽間遺跡 | 15 長尾1号墳 |
| 16 長尾2号墳 | 17 長尾3号墳 | 18 南谷遺跡 | 19 小山・南谷遺跡 | 20 新田本村遺跡 |
| 21 小山古墳 | 22 山下古墳 | 23 山下廃寺 | 24 久本古墳 | 25 岡山小古墳群 |
| 26 岡山古墳群 | 27 漆谷古墳群 | 28 久米池遺跡 | | |

第3章 調査の成果

第1節 I区の調査

(1) 調査地の概要と基本層序 (第4～7図)

調査区は奥の坊遺跡の南端に位置する。なお、I区の南側には北東から南西方向に流れる旧河道が所在したことが、試掘調査で判明している。調査地も北東から南西方向にかけて傾斜が見られ、現地表面の標高は38.5～39.6mである。

調査に際しては、調査区の北壁と東壁において土層観察を行った。北壁部分では、概ね近世以降の耕作土層及び客土層が50cm堆積しており、その直下でにぶい黄橙色細砂～粗砂層の地山となっている。東壁では、北壁同様に近世以降の耕作土層及び客土層(第7図1～14層)が50cm堆積しており、北部ではこの直下で地山となる。南部では以下に遺物を包含する褐灰色シルト質極細砂層(第7図34層)、黒褐色砂泥粘土層(第7図34層)が堆積し、その下層において地山となる。地山も北東から南西にかけて緩やかに傾斜しており、標高37～38.5mである。

遺構面は、遺物包含層上面と地山上面の2面で検出した。遺物包含層上面で検出した遺構面を第1遺構面、地山直上で検出した遺構面を第2遺構面として調査を行った。第1遺構面では掘立柱建物跡1棟、土坑2基、旧河道1条、ピット等を検出し、その出土遺物から概ね近世以降の遺構面と考えられる。第2遺構面では、北半のみに遺構が集中するが、竪穴住居跡1棟、土坑7基、ピット等を検出し、その出土遺物から概ね弥生時代中期前半の遺構面と考えられる。

(2) 第2遺構面の遺構

SH12001 (第8図)

調査区北西端で検出した竪穴住居跡である。西辺は調査区外に延びるが、平面形態は不整形な隅丸方形を呈し、長辺4m以上、短辺3.5m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。床面において直径15～90cm、深さ5～20cmの円形のピット15基を検出したが、いずれが主柱穴になるかは不明である。また、中央部から西に延びる幅28cm、長さ1.84m以上、深さ5cmの用途不明の溝を検出した。ピット及び溝の埋土はすべて竪穴住居埋土と同じ黒褐色砂泥粘土である。出土遺物は弥生土器の小片のみであり、遺構の詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構の時期から弥生時代中期前半と考えられる。

SK12001 (第9図)

調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺3.04m、短辺1.06m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12002 (第10図)

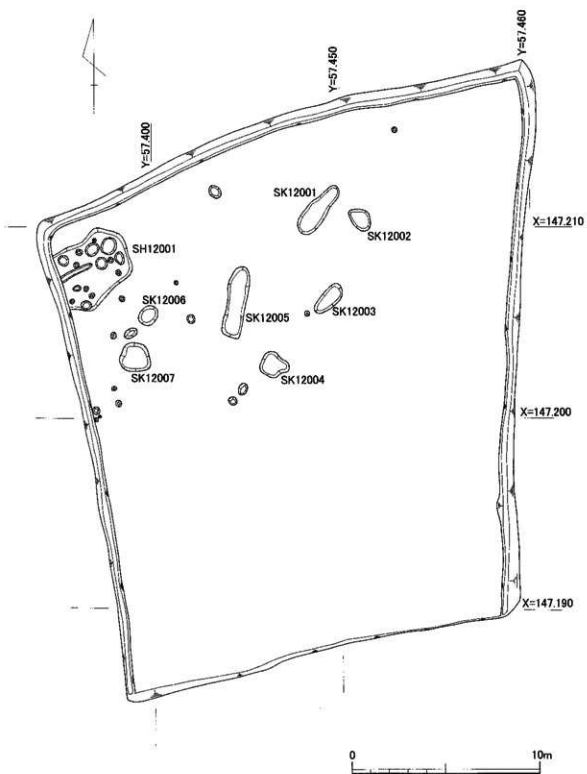
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.34m、短径1.01m、深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12003 (第11図)

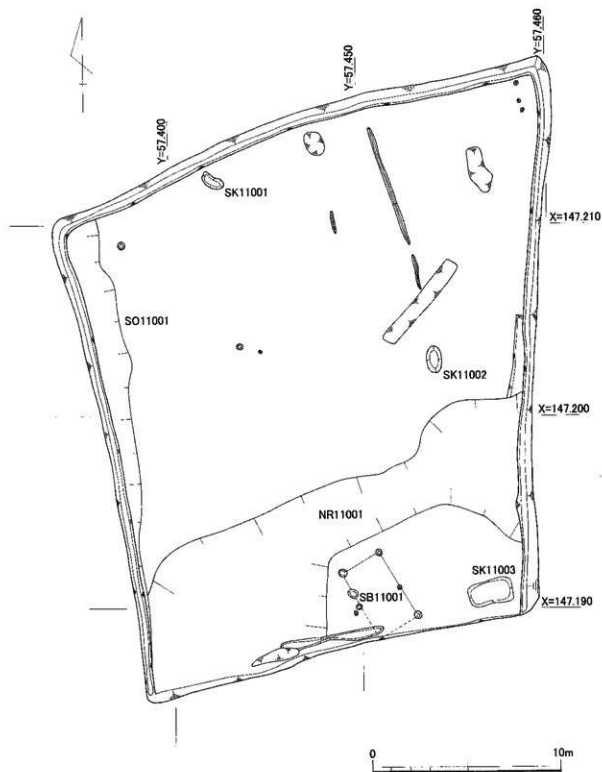
調査区の北部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.87m、短径90cm、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12004 (第12図)

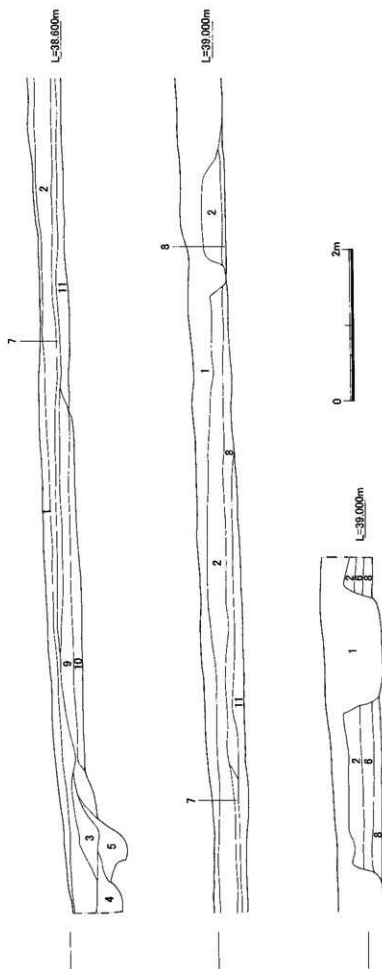
調査区の中央で検出した土坑である。平面形態は不整形な隅丸方形を呈し、長辺1.52m、短辺1.31m、深さ21cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘土の単層である。遺物は出土してお



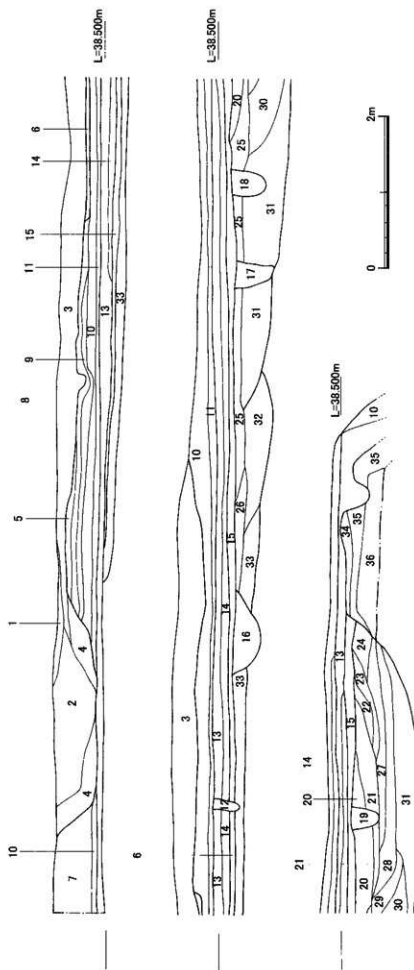
第4図 I区第2面調査地平面図 (S=1/200)



第5図 I区第1面調査地平面図(S=1/200)



第6図 I 区北壁土層断面図 (S = 1/50)



1 25Y	5/1 灰土	シルト質細砂(粘土)	10 10Y	5/1 灰	18 25Y	5/2 灰土	細砂~細砂(粘土)	28 10YR	7/3 に近い黄砂	細砂(NR1001)粘土
2 25Y	4/1 灰土	シルト質細砂(粘土)	11 25YR	5/3 に近い黄	20 10YR	5/4 に近い黄	細砂(NR1001)粘土	29 7.5YR	5/4 に近い黄	細砂~細砂(NR1001)粘土
3 10YR	7/6 灰土	花崗土(粘土)	12 10YR	5/1 灰土	21 10YR	6/3 に近い黄	細砂(NR1001)粘土	30 2.5Y	6/3 に近い黄	細砂(NR1001)粘土
4 10YR	5/3 に近い黄	シルト質細砂(粘土)	13 10YR	5/1 灰土	22 10YR	6/2 灰土	細砂(NR1001)粘土	31 10YR	4/2 灰土	細砂(NR1001)粘土
5 10YR	5/2 灰土	シルト質細砂(粘土)	14 10YR	5/2 灰土	23 10YR	7/3 に近い黄	細砂~細砂(NR1001)粘土	32 7.5YR	5/3 に近い黄	細砂(NR1001)粘土
6 10YR	4/3 に近い黄	シルト質細砂(粘土)	15 7.5YR	5/4 に近い黄	24 10YR	7/1 灰土	細砂~細砂(NR1001)粘土	33 7.5YR	4/2 灰土	細砂~細砂(NR1001)粘土
7 5B	5/1 灰土	シルト質細砂(粘土)	16 7.5YR	4/1 灰土	25 10YR	7/2 に近い黄	細砂(NR1001)粘土	34 10YR	4/1 灰土	シルト質細砂(粘土)粘土
8 N	5/0 灰	花崗土(粘土)	17 5Y	5/1 灰	26 25Y	7/2 灰土	細砂(NR1001)粘土	35 10YR	4/1 灰土	シルト質細砂(粘土)粘土
9 10YR	5/3 に近い黄	シルト質細砂(粘土)	18 25Y	6/2 灰土	27 10YR	6/1 灰土	細砂~細砂(NR1001)粘土	36 10YR	7/3 に近い黄	細砂~細砂(粘土)

第7図 I 区東壁土層断面図 (S=1/50)

らず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12005 (第13・14図)

調査区の中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長辺3.75m、短辺1.08m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘土の単層である。

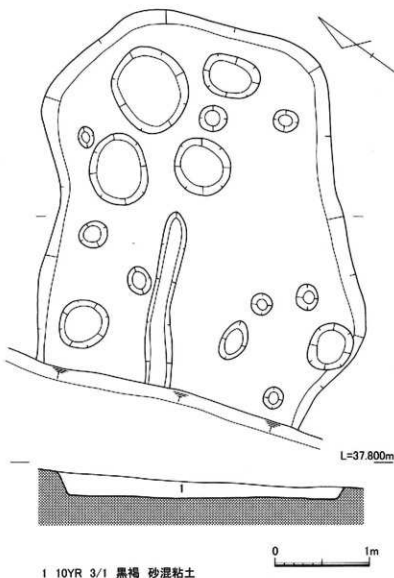
出土遺物は第14図1の弥生土器底部1点のみである。出土遺物から弥生時代中期の遺構と考えられる。

SK12006 (第15図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.13m、短径90cm、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK12007 (第16図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺1.64m、短辺1.48m、深さ36cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。土坑の西側は黒褐色砂混粘土、東側は灰黄褐色細砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。



第8図 SH12001平・断面図

(3) 第1遺構面の遺構

SB11001 (第17図)

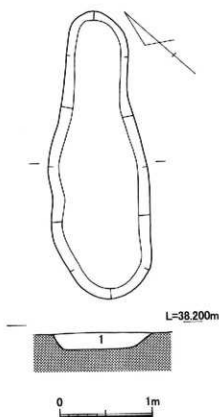
調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。東西1間(2.33m)×南北2間(3.97m)で、主軸方位はN-32°-Wである。建物を構成する柱穴は径20~42cmの円形ないし楕円形を呈し、深さ8~20cmである。柱穴埋土はすべて灰白色シルト質極細砂の単層である。遺物は出土していないが、南北方向の柱間は、概ね6尺5寸を1間としていることから、近世の遺構と考えられる。

SK11001 (第18図)

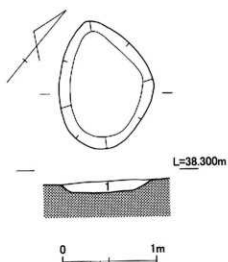
調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.21m、短径54cm、深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰白色シルト質極細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

SK11002 (第19・20図)

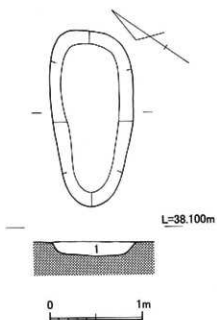
調査区の東部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.39m、短径77cm、深さ8cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は灰白色シルト質極細砂の単層である。



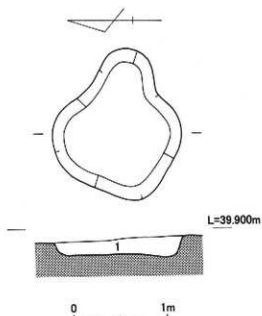
1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土
第9图 SK12001平·断面图



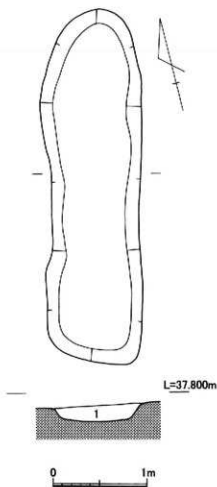
1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土
第10图 SK12002平·断面图



1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土
第11图 SK12003平·断面图

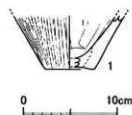


1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土
第12图 SK12004平·断面图

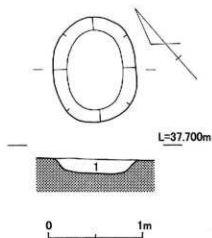


1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土

第13图 SK12005平·断面图

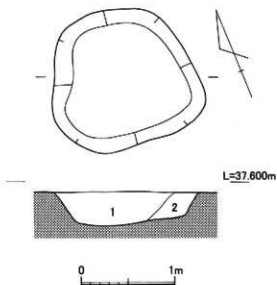


第14图 SK12005出土遺物実測図



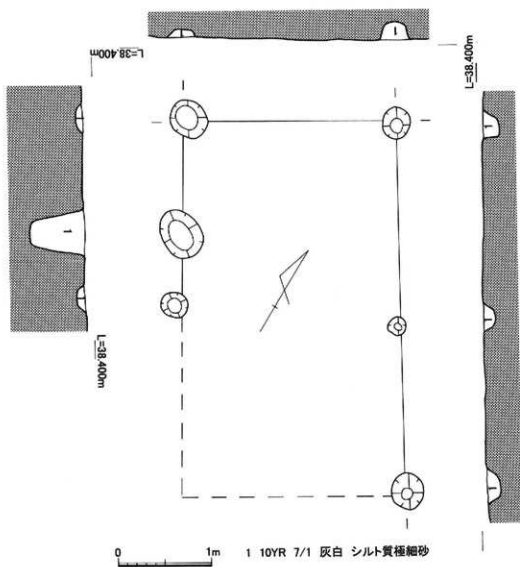
1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土

第15图 SK12006平·断面图

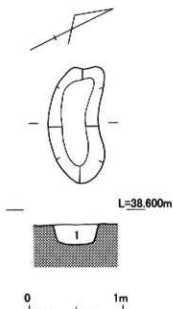


1 10YR 3/1 黑褐 砂混粘土
2 10YR 4/2 灰黄褐 細砂

第16图 SK12007平·断面图

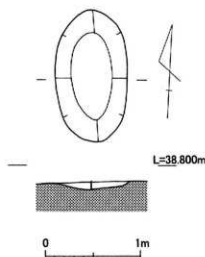


第17図 SB11001平・断面図



1 10YR 7/1 灰白 シルト質極細砂

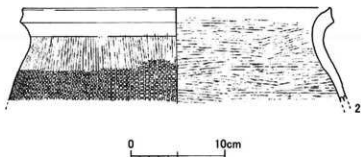
第18図 SK11001平・断面図



1 10YR 7/1 灰白 シルト質極細砂

第19図 SK11002平・断面図

出土遺物は第20図2の亀山焼の壺1点のみである。頸部の屈曲は弱く、短い口縁部は端部をやや上方に拡張させている。外面は格子目タタキのち頸部のみ粗いタテハケ、内面は粗いヨコハケである。出土遺物から中世末～近世前半の遺構と考えられる。



第20図 SK11002出土遺物実測図

SK11003 (第21図)

調査区の南東部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形を呈し、長辺2.37m、短辺1.31m、深さ34cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は褐色砂混粘土、第2層はにぶい黄色粗砂、第3層は黒褐色砂混粘土である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明である。

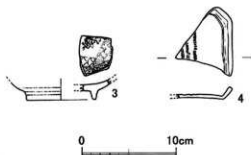
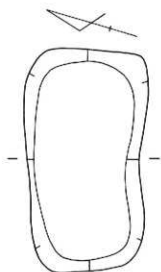
SO11001 (第5・22図)

調査区の西端で検出した落ち込みである。西側が調査区外のため不明であるが、西側へ徐々に下がっている。埋土は青灰色砂混粘質土の単層である。調査区の西側は、現地表面で約1mの段差があることから、旧地形の段差と考えられる。

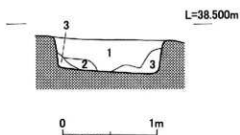
出土遺物は第22図に掲載した。3は肥前系磁器の碗である。染付けは銅版転写によるものである。4は産地不明陶器の卸し具である。出土遺物から近代以降の遺構と考えられる。

NR11001 (第5・7図)

調査区の南部で検出した旧河道である。東から南西に向かって流れており、最大幅9.5m、深さ1mを測る。埋土は15層に分層できたが、3層に大別できる。最終埋没層である上層はにぶい褐色粘質シルト(第7図15層)である。中層は細かく細分できるが、灰白からにぶい黄褐色の細砂から粗砂(第7図20～30層)である。下層は、厚い堆積であり、にぶい褐色から灰黄褐色の細砂から粗砂である。陶磁器の小片が出土していることから、近世以降の遺構と考えられる。



第22図 SD11001出土遺物実測図



- | | | | |
|---|----------|------|------|
| 1 | 10YR 5/1 | 褐灰 | 砂混粘土 |
| 2 | 2.5Y 6/4 | にぶい黄 | 粗砂 |
| 3 | 10YR 3/1 | 黒褐 | 砂混粘土 |

第21図 SK11003平・断面図

第2節 II区の調査

(1) 調査地の概要と基本層序 (第23～25図)

II区は奥の坊遺跡の南部に位置する。現地表面はほぼ平坦面、標高は40.5mである。調査に際しては、調査区の北壁において土層観察を行い、第24・25図に掲載した。第1～4層は現代の耕作土及び床土であり、調査区全体に30～50cmの堆積が認められる。調査区の東半はこの直下で地山のにぶい黄色の粗砂層となっている。地山は近世以降の耕作により、階段状になっている部分もあるが、北東から南西にかけて緩やかに下っており、標高38.5～40.2mである。このため、西半は堆積が厚くなり、地山との間に第5層の灰黄褐色砂混粘質土と第6層の黒色砂混粘質土層が認められる。第6層は、弥生土器・土師器・須恵器・石器を多量に包含する遺物包含層である。

遺構面は、第5層上面と地山上面の2面検出したが、第5層上面の遺構は希薄で、近世以降の遺構と考えられたことから、地山上面の1面のみの調査を行った。竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡5棟、土坑28基、溝6条、ピット多数を検出した。遺構面の時期は出土遺物から概ね弥生時代中期前半～古代であるが、南東部では包含層が所在せず、近世の遺構も検出した。東半は近世以降の耕作により削平を受けたためか、遺構は希薄であり、西半に集中する。

(2) 包含層出土遺物 (第26～33図)

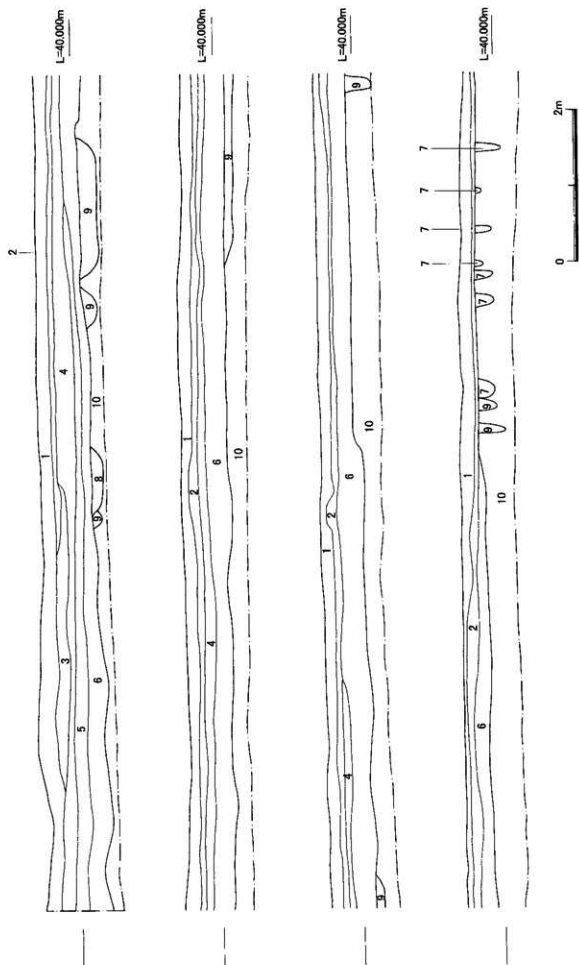
包含層からは多量の土器・石器が出土した。II区の北側の調査(Ⅲ・Ⅵ・Ⅶ区)において、緩斜面に集落の中心部が所在することが判明しており、これらの集落中心部から流れ込んできたものと推定される。出土遺物の時期は弥生時代中期前半、7～8世紀の2時期に限定できる。

出土遺物は第26～33図に掲載した。5～25は弥生土器の甕である。5は如意状口縁で、外面はタテハケ後下半のみタテハラミガキ、内面はヨコハラミガキである。体部外面に多条の櫛描直線文を施し、その最下段に波状文を施している。6は口縁部を強く折り曲げ、逆L字状に仕上げている。外面ナデ、内面指頭圧である。体部外面に4本一束の櫛描直線文を6条施し、その最下段に櫛描波状文を施している。7はくの字に近い口縁で多条の櫛描直線文を施している。8は如意状口縁で、外面に多条の櫛描直線文を施している。9は如意状口縁で、口縁端部に刻目を施している。10～15は施文が見られない甕である。10は逆L字状口縁である。11～13・16・21・24・25は如意状口縁である。14・15・17～20・22・23はくの字口縁である。26・27は弥生土器の鉢である。いずれも如意状口縁で施文は見られない。28は弥生土器の蓋である。29～37は弥生土器の広口甕である。29は頸部内面に2条の糸帯を貼り付けているものである。30は外反しながら口縁部を大きく開くもので、口縁端部を上下に拡張させ、端面に山形文を施している。外面はタテハケで、内面に櫛描波状文を施している。31は外反しながら口縁部を大きく開くもので、口縁部を上下に拡張させ、端面に斜格子文を施している。外面タテハケ、内面ヨコハラミガキである。口縁部内面には3条の櫛描波状文を施している。32は外反する口縁部の端部を下方に拡張させ、端面に斜格子文を施している。外面タテハケ、内面ヨコハラミガキである。口縁端部を上方に拡張させ、端面に刻目を施している。34は小型品で、外面タテハケ、内面ヨコハラミガキである。口縁端部に斜格子文、頸部に櫛描直線文を施している。35は口縁部の外反が少量のもので、口縁端部に刻目を施している。36は体部から強く屈曲させ口縁部を作っている。外面ナデ、内面板ナデである。37は体部からはほぼ垂直に直立する頸部を持ち、口縁部を外方に屈曲させるものである。内外面とも指頭圧である。38～41は弥生土器の無頸甕である。38は外面に櫛描直線文を施している。39は櫛描直線文2原体に櫛描波状文1原体を交互に施している。40・41は体部片である。40は櫛描波状文と櫛描直線文を交互に施した後、円形浮文を貼り付けている。内面は指頭圧である。41は櫛描直線文を3条施し、1段目と2段目の櫛描直線文間は櫛描波状文を施し、2段目と3段目の間は櫛原体によって縦方向に区画している。内面は板ナデである。42～44は弥生土器の鉢で、いずれもバケツ型を呈するものと考えられる。42は外面に櫛描直線文と櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。43は櫛描直線文を施しており、焼成後口縁部に円孔を穿っている。44はマメツが著しいためか、文様は見られない。45～63は弥生土器の底部である。外面の調整はタテハラミガキが主体を占めるが、50・54は板ナデ、55はタテハケである。内面の調整については指頭圧や指頭ナデによるものが多い。63は底面から底部外面に向けて2個1対の穿孔が2方向にあるもので、蓋の可能性も考えられる。これらの土器は概ね弥生時代中期前半の遺物と考えられる。

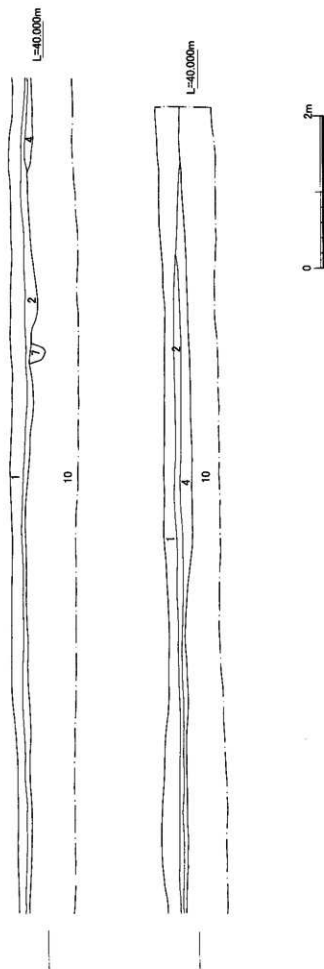
64・65は土師器の甕である。64はくの字に屈曲する口縁である。65は頸部の屈曲が弱く、口縁端部



第23図 II区遺構平面図 (S=1/200)

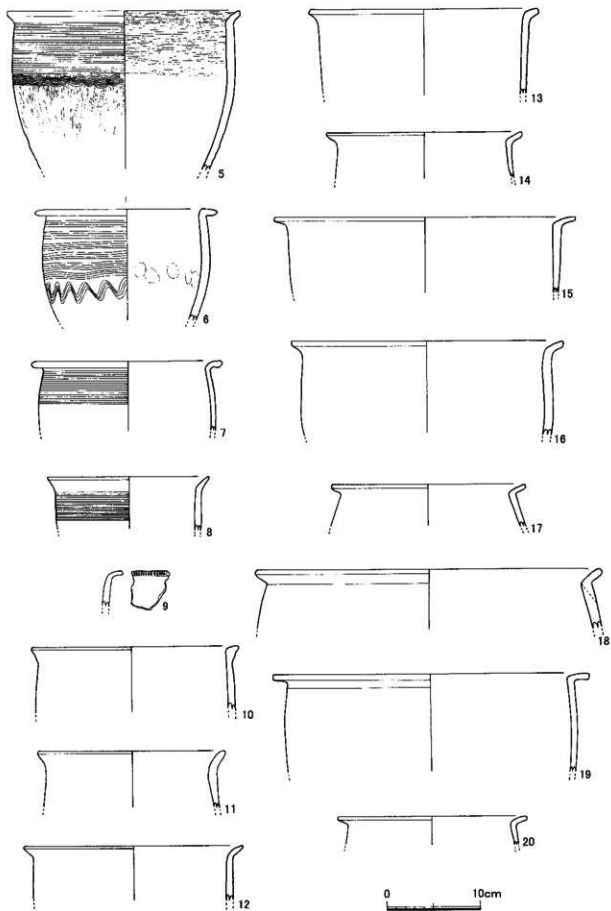


第24図 II区北壁土層断面図① (S=1/50)

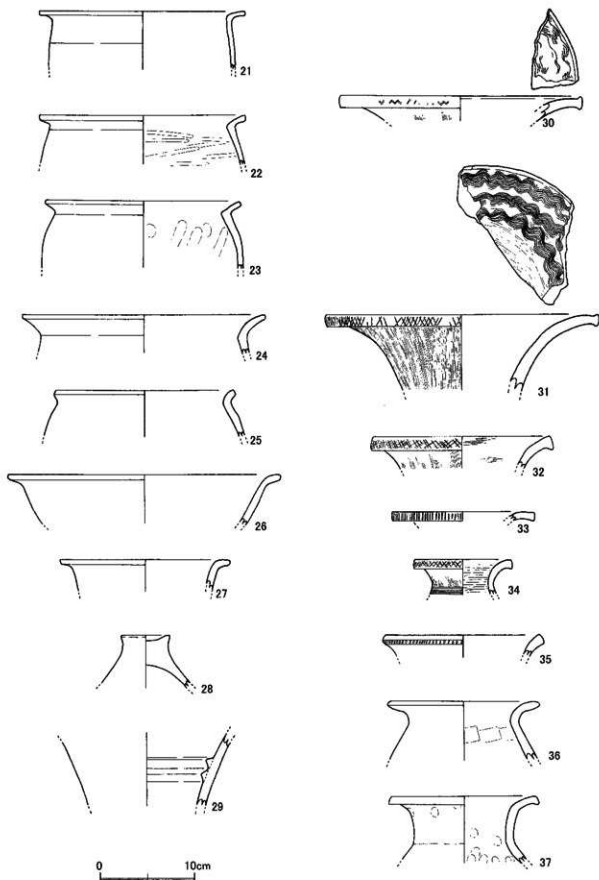


- | | | | | |
|----|-------|-----|-------|--------------|
| 1 | 2.5Y | 6/1 | 黄灰 | 粘質シルト(細作土) |
| 2 | 10YR | 8/4 | 浅黄橙 | 花崗土(寄土) |
| 3 | 2.5Y | 4/1 | 黄灰 | 粘質シルト(細作土) |
| 4 | 7.5YR | 7/4 | にぶい橙 | 粘質シルト(床土) |
| 5 | 10YR | 6/2 | 灰黄橙 | 砂混粘質土 |
| 6 | 10YR | 2/1 | 黒 | 砂混粘質土(遺物包含層) |
| 7 | 5G | 6/1 | 緑灰 | 砂混粘土(遺構埋土) |
| 8 | 10YR | 3/1 | 黒褐 | 砂混粘質土(遺構埋土) |
| 9 | 10YR | 4/1 | 褐灰 | 砂混粘質土(遺構埋土) |
| 10 | 10YR | 7/3 | にぶい黄橙 | 粗砂(堆山) |

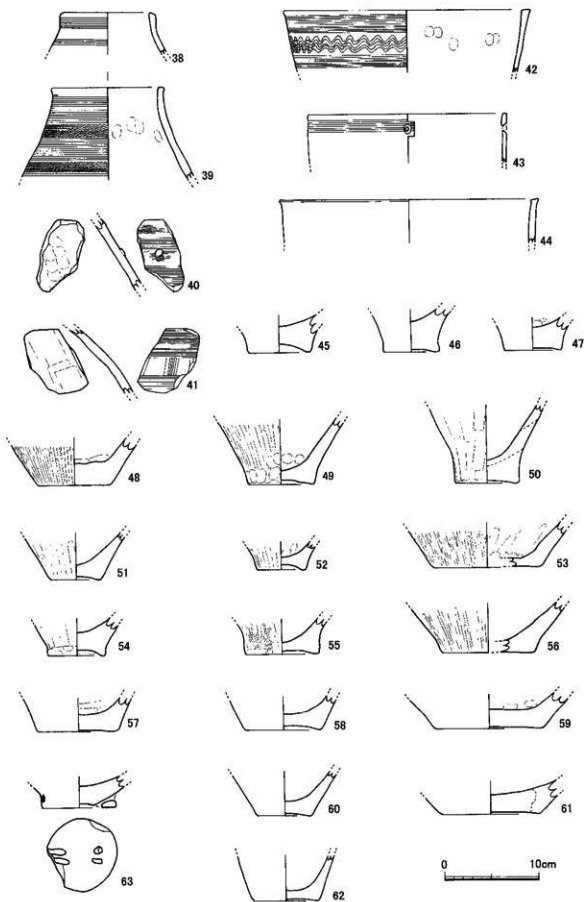
第25図 II 区北壁土層断面図② (S=1/50)



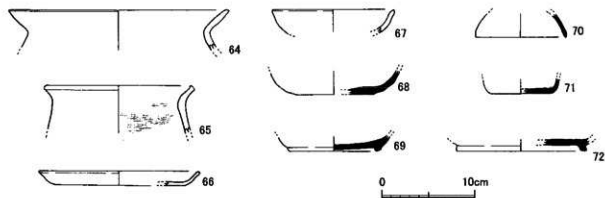
第26図 包含層出土遺物実測図①



第27図 包含層出土遺物実測図②



第28图 包含層出土遺物実測図③



第29図 包含層出土遺物実測図④

をやや拡張させ、面を持つ。内面は粗いヨコハケである。66は上師器の皿である。内外面ともナデである。67は土師器の坏である。内外面ともナデである。68・69は須恵器の坏である。焼成不良のため土師質となっている。68は境状を呈し、69は高台を持つ。70は須恵器の蓋である。小型で、残存部に回転ヘラケズリは認められない。71・72は須恵器の坏である。71は境状を呈し、72は高台を持つ。これらの土器は概ね7～8世紀頃の遺物と考えられる。

S1・S2はサヌカイトの素材剥片である。S1は周囲に粗い加工痕が見られ、加工途中の可能性がある。重量は291.6gである。S2は自然面を残し、大きい剥離面が見られるだけである。奥の坊遺跡群全体で最大の素材剥片であり、重量は700gである。S3・S4は石鏃である。S3は基部を欠くがやや大型の石鏃である。S4は平基式である。S5は基部のみ残るが、石槍と考えられる。S6は石小刀である。刃部はほとんど調整を行っていないが、背部は両面から入念に調整している。側縁部には自然面を残している。S7～S15は石庖丁である。S7・S9・S11・S12・S15は抉りを持つ。S16は石匙である。機状の形態を呈し、片面から調整している。S17は石鏃である。基部のみ残り、自然面を残している。S18～S25は削器である。S26はチャート製の石鏃である。頭部から鏃部まで一体的な滴状の形態を呈し、分厚いつくりである。S27～S29は大型蛤刈石斧である。S27は花崗岩、S28・S29は緑泥片岩である。S29の刃部には擦痕が見られる。S30・S31は砂岩の磨石である。S32は砂岩の石皿である。側面に敲打痕があり、叩き石に利用されたと考えられる。これら石器は、いずれも弥生時代中期前半の遺物と考えられる。

(3) 遺構

SH21001 (第34図)

調査区北西部で検出した堅穴住居跡である。西端はSD21001に切られるが、平面形態は楕円形を呈し、長径4.7m、短径3.8m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘質土の単層である。床面において直径25～70cm、深さ5～20cmの円形のピット10基を検出したが、いずれが支柱穴になるかは不明である。出土遺物は弥生土器の小片のみであり、遺構の詳細な時期は不明であるが、周辺の遺構の時期から弥生時代中期前半と考えられる。

SH21002・21003 (第35・36図)

調査区西端で検出した堅穴住居跡である。平面では切り合い関係が確認できず同一遺構として掘削したが、調査中に断面及び床面の遺構の切り合い関係から、2棟の堅穴住居跡が存在することが判明した。北側をSH21002、南側をSH21003とした。切り合い関係からSH21002が後出する。

SH21002は西側の大部分が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、平面形態は円形を呈すると考えられ、直径4.8m以上、深さ31cmを測る。残存部分から判断すると、断面形態は逆台形を呈すると考えられ、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。床面において最大幅22cm、深さ5cmの盛清を検出しており、その内側でピット4基を検出した。いずれも調査区外に延びており、一部しか掘削できていないが、これら遺構の埋土も褐灰色砂泥粘質土である。

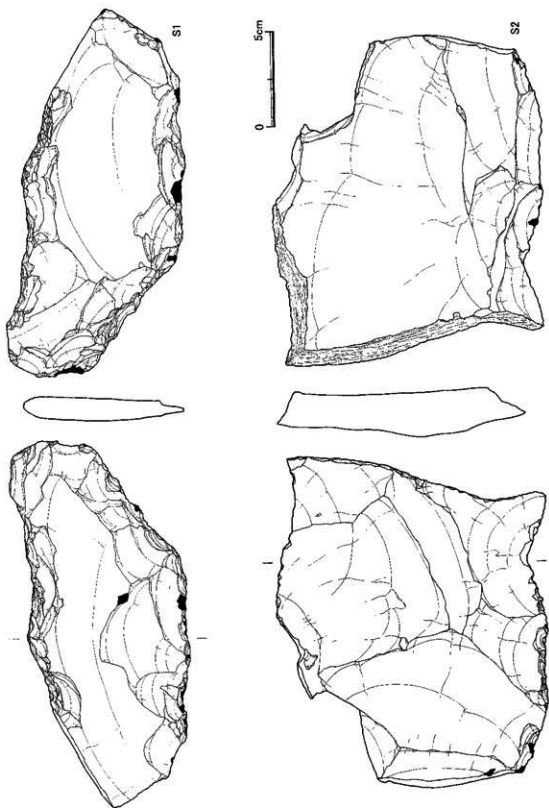
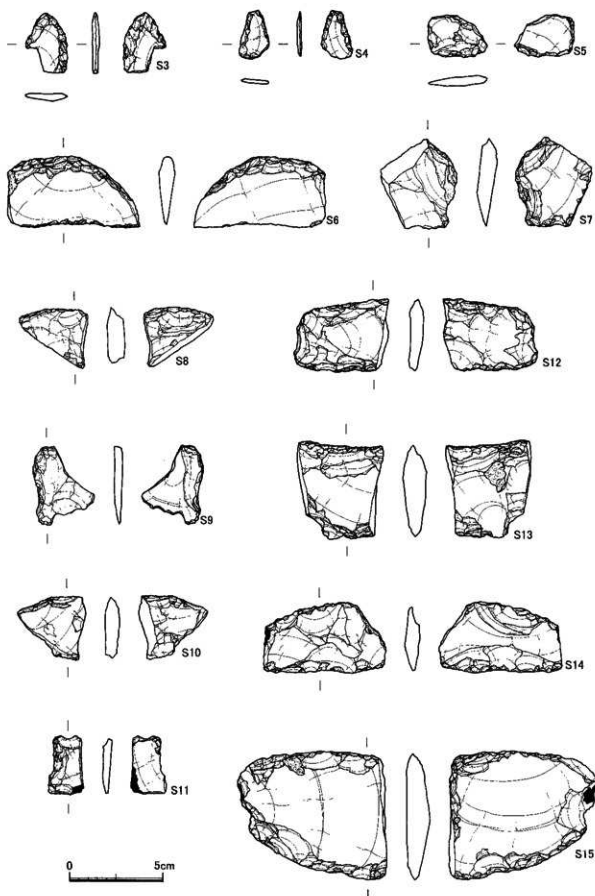
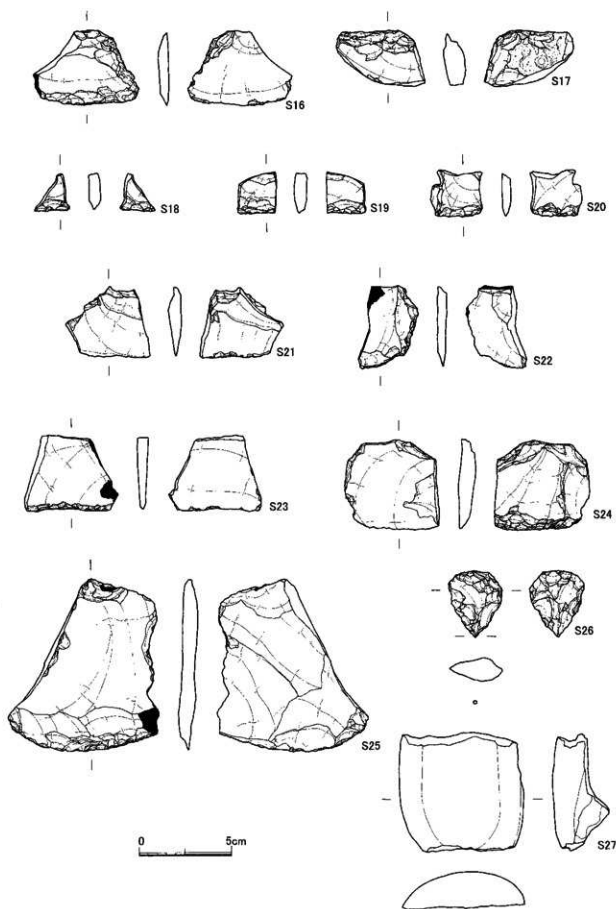


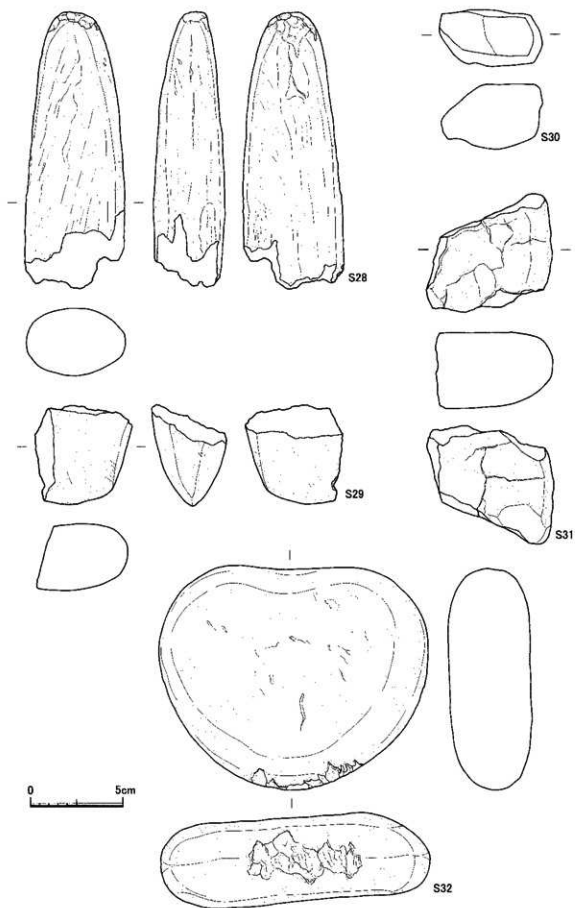
图30 包舍遗址出土陶片展图⑤



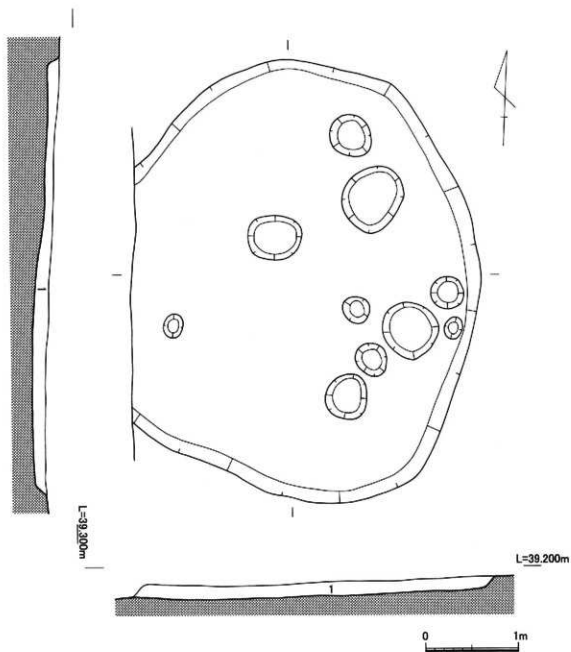
第31图 包含層出土遺物実測図⑥



第32図 包含層出土遺物実測図⑦

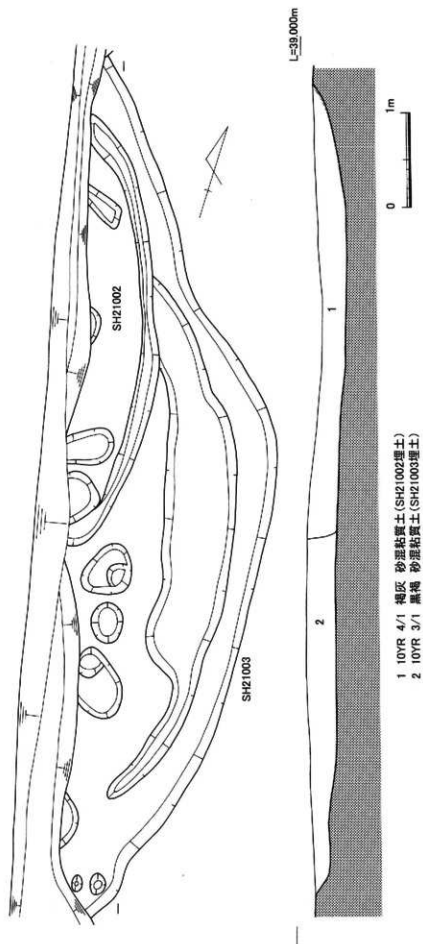


第33図 包含層出土遺物実測図⑧

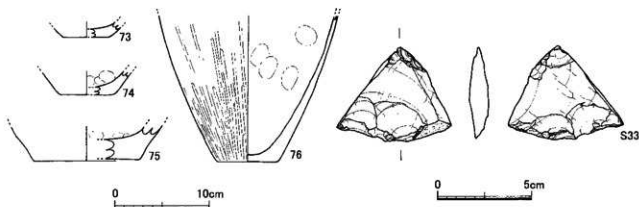


1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第34図 SH21001平・断面図



第35図 SH21002・SH21003平・断面図



第36図 SH21002・21003出土遺物実測図

SH21003は断面観察によりSH21002に切られている。西側の大部分が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、平面形態は円形を呈すると考えられ、直径6.8m以上、深さ32cmを測る。残存部分から判断すると、断面形態は逆台形を呈すると考えられ、埋土は黒褐色砂泥粘質土の単層である。床面において最大幅75cm、深さ10cmの壁溝を検出しているが、南端では壁溝が途切れる。壁溝の内側に長径45～70cm、深さ10～20cmのビット3基を検出した。また、壁溝の外側においても長径18cm及び22cm、深さ10cmの2基のビットを検出した。これら遺構の埋土も黒褐色砂泥粘質土である。

出土遺物は第36図に掲載した。先述のとおり切り合い関係不明のまま同一遺構として掘削したため、出土地の細分はできていない。73～76は弥生土器の底部である。74～76の内面は指頭圧である。76の外面はクテヘラミガキである。S33は削器である。出土遺物から、SH21002・SH21003ともに弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SB21001 (第37・38図)

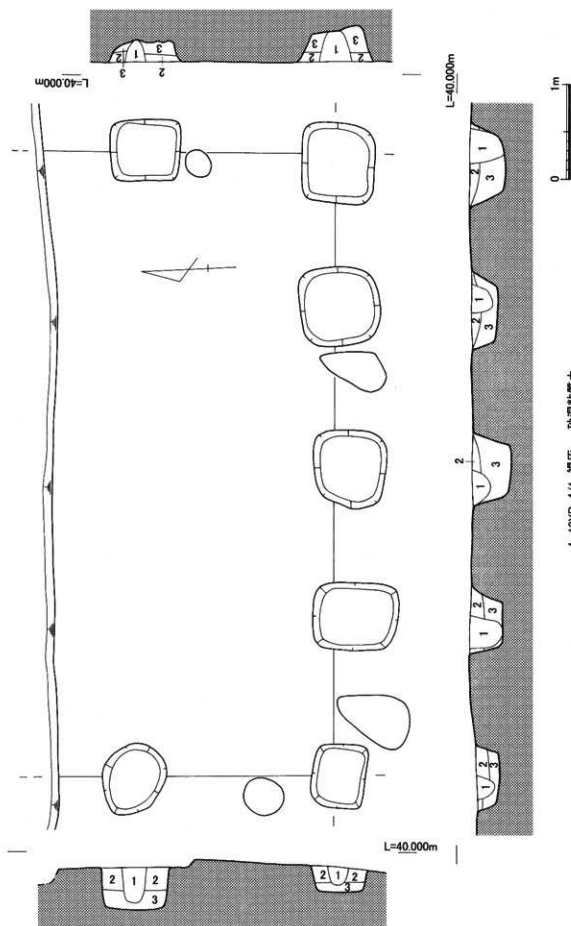
調査区の北部中央で検出した掘立柱建物跡である。北半が調査区外に延びるため規模は不明であるが、東西4間(6.58m)×南北1間(2.1m)以上で、主軸方位はN-87°-Wである。建物を構成する柱穴は隅丸長方形を呈し、最小のもので長辺68cm、短辺54cm、深さ27cm、最大のもので長辺92cm、短辺72cm、深さ38cmを測る。柱痕は直径22～35cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。柱痕埋土は褐灰色砂泥粘質土、掘方埋土は上層が黒褐色砂泥粘質土、下層が灰黄褐色砂泥粘質土である。東西方向の柱間はほぼ均一で、概ね1.65mを1間としている。南北方向は2.2mを1間としている。

なお、建物の南辺の柱穴列の西側延長部分において4基のビットを並んだ状態で検出した。ビットの平面形態は楕円形を呈し、長径40～70cmと小さく、深さも20～30cmと浅く、埋土も異なる。ビットの芯間も約1.5mと狭いことから、SB21001との関係はないものと判断した。

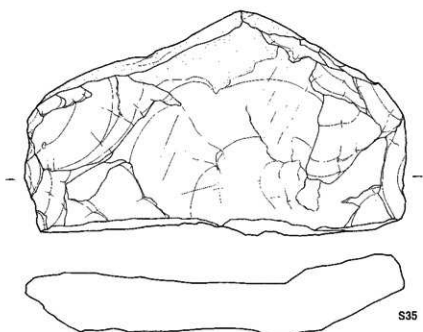
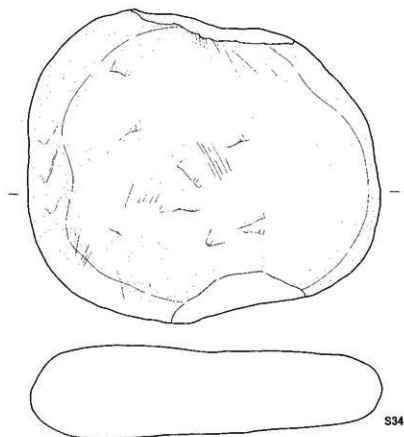
出土遺物は第38図に掲載した。S34は砂岩の石皿である。S35は泥岩の石皿である。根石状に使用されており、掘方から出土した。いずれも弥生時代のものである。石皿以外出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、柱間が統一されていること、周辺部の7～8世紀の遺構の方位と近似すること等から7～8世紀の遺構と考えられる。

SB21002 (第39図)

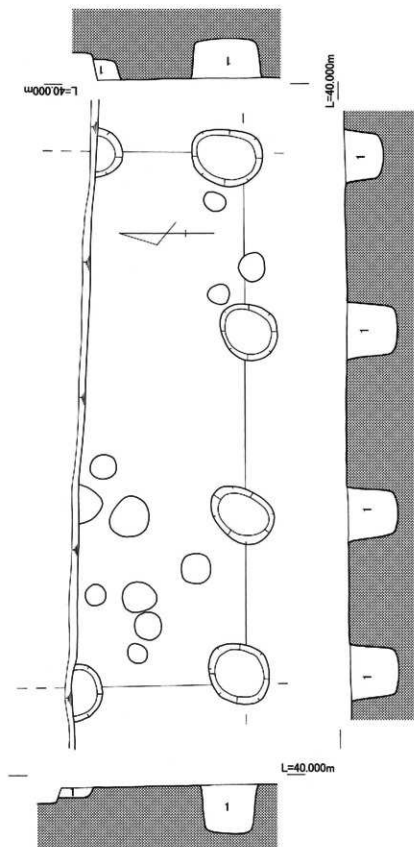
調査区の北部中央で検出した掘立柱建物跡である。東西3間(5.66m)×南北1間(1.8m)以上で、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は長径68～76cm、短径52～58cmの楕円形を呈する。東西方向に並ぶ4基の柱穴の深さは42～50cmと深く、ほぼ均一であるのに対し、北西側は10cm、北東側は20cmで浅い。いずれも断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。柱間はほぼ均等で、1.85～1.9mを1間としている。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7～8世紀の遺構の方位と近似することから7～8世紀の遺構と考えられる。



第37圖 SB21001平・断面圖

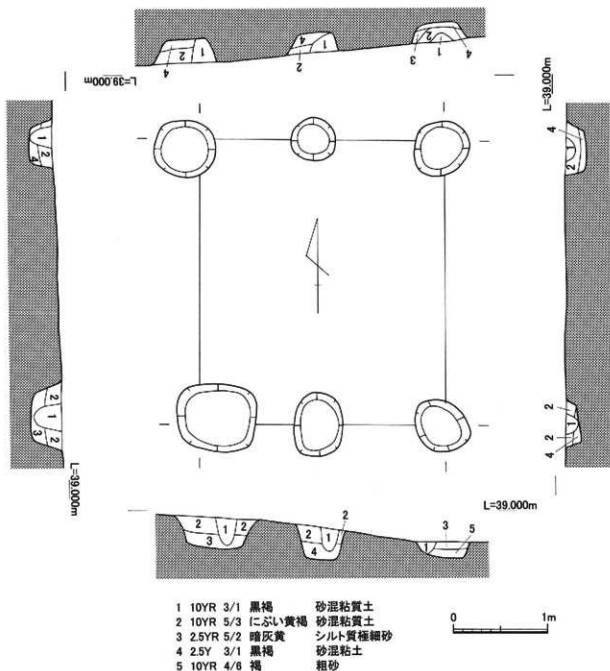


第38図 SB21001出土遺物実測図

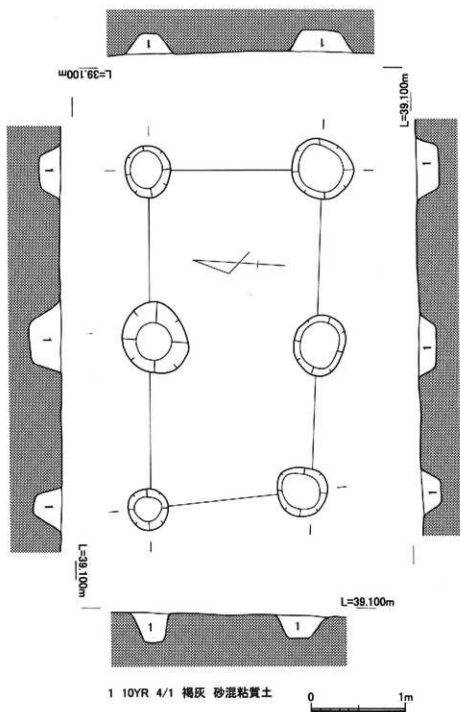


1 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

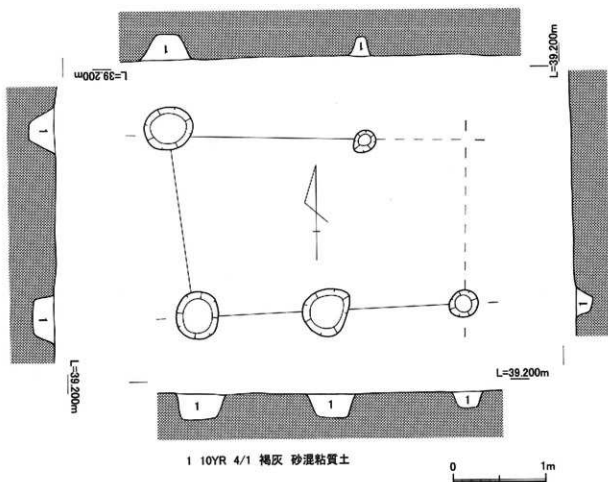
第39図 SB21002平・断面図



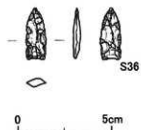
第40図 SB21003平・断面図



第41図 SB21004平・断面図



第42図 SB21005平・断面図



第43図 SB21005出土遺物実測図

SB21003 (第40図)

調査区の南西部で検出した掘立柱建物跡である。東西2間(2.64m)×南北1間(3.02m)、床面積7.97㎡を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形、隅丸長方形、円形を呈し、最小のもので長径48cm、短径45cm、深さ20cm、最大のもので長径86cm、短径76cm、深さ34cmを測り、ばらつきがある。柱痕は直径20～28cmである。断面形態は逆台形を呈し、埋土は5層に分層できる。柱痕埋土は黒褐色砂泥粘質土、掘方埋土は上層がにぶい黄褐色砂泥粘質土、下層が黒褐色砂泥粘質土で、一部に暗灰黄色シルト質極細砂や褐色粗砂がみられる。東西方向の柱間は1.1～1.3mで、均等ではない。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7～8世紀の遺構の方位と近似することから7～8世紀の遺構と考えられる。

SB21004 (第41図)

調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。建物の南辺が北辺と比べやや短い、東西2間(3.55m)×南北1間(1.89m)、床面積6.57㎡を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形及び円形を呈し、長径45～75cm、短径42～68cm、深さ20～32cmを測り、ばらつきがある。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐色砂泥粘質土の単層である。柱間はほぼ均等で、1.75～1.85mを1間としている。遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、周辺部の7～8世紀の遺構の方位と近似することから7～8世紀の遺構と考えられる。

SB21005 (第42・43図)

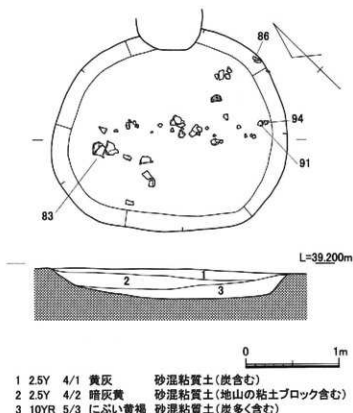
調査区の南部中央で検出した掘立柱建物跡である。削平により北東隅の柱穴を欠くが、東西2間(2.97m)×南北1間(1.89m)、床面積5.61㎡を測り、主軸方位はほぼ東西方向である。建物を構成する柱穴は楕円形及び円形を呈し、長径28～56cm、短径22～48cm、深さ18～27cmを測り、ばらつきがある。断面形状は逆台形を呈し、埋土は褐色砂泥粘質土の単層である。柱間は1.4～2.1mで、均等ではない。

出土遺物は第43図S36の石鏃のみである。凹基式の石鏃で、細長い形態である。弥生時代の遺物であるが、周辺部の7～8世紀の遺構の方位と近似することから7～8世紀の遺構と考えられる。

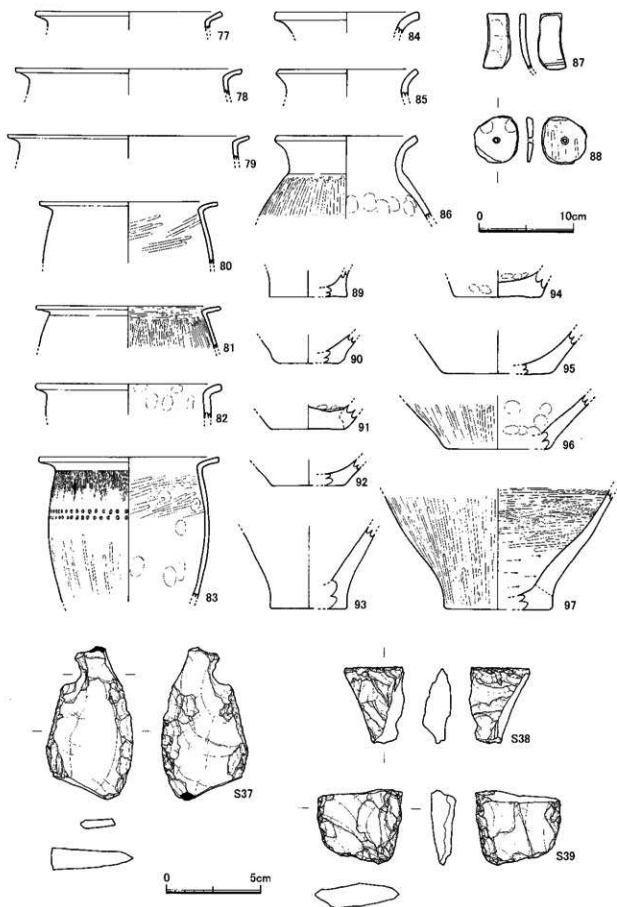
SK21001 (第44・45図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径2.53m、短径2.01m、深さ32cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は炭を含む黄灰色砂泥粘質土、第2層は地山の粘土ブロックを含む暗灰黄色砂泥粘質土、第3層は炭を多量に含むにぶい黄褐色砂泥粘質土である。全体に遺物を包含するが、中央部の下層で多く出土した。

出土遺物は第45図に掲載した。出土土器はすべて弥生土器である。77～83は甕である。77～81はくのはく口縁で、施文は見られない。80は内面ヨコヘラミガキ、81は内面タテヘラミガキで、口縁部ヨコヘラミガキである。82は如意状口縁で、内面指頭圧である。83はくのはく口縁で、外面上半タ

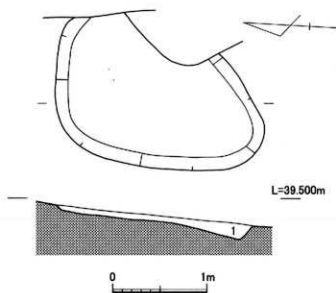


第44図 SK21001平・断面図



第45図 SK21001出土遺物実測図

テハケ、下半タテヘラミガキで、体部最大径付近に棒状工具による上下2個1対の刺突文を施している。内面は指頭圧後ヨコヘラミガキである。84～86は広口壺である。頸部から短く外反する口縁部を持つ。86は外面タテヘラミガキ、内面指頭圧である。87は無頸壺である。外面に櫛描直線文を施している。内面は指頭圧である。88は紡錘車である。土器片を転用したもので、外面タテヘラミガキ、内面指頭圧である。両面から穿孔している。89～97は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多く、S37は石匙である。背部は自然面を残し、抉りを施している。刃部は両面より調整している。S38は石庖丁である。背部のみに残るものである。S39は基部のみであるが、石槍と考えられる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

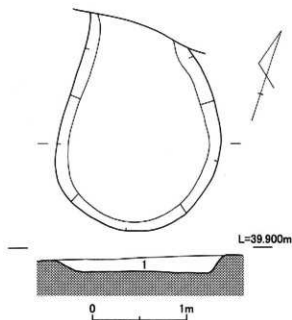


1 10YR 5/2 灰黄褐 砂混粘質土

第46図 SK21002平・断面図

SK21002 (第46図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21008及びSD21001に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径2.42m、短径1.37m、深さ16cmを測る。遺構面が緩斜面となっており、その斜面方向に長軸をとる。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、7～8世紀の遺構SD21001に切られていることから、古代以前の遺構である。明確ではないが、弥生時代中期前半の遺構の可能性が考えられるSK21008に切られていることから、弥生時代中期前半の遺構の可能性が最も高い。

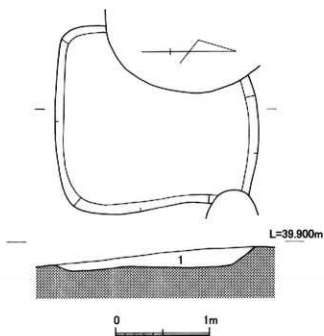


1 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第47図 SK21003平・断面図

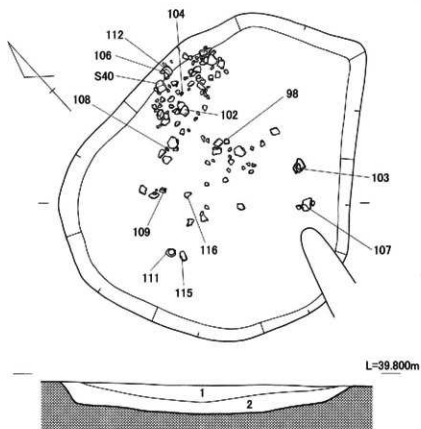
SK21003 (第47図)

調査区の北西部で検出した土坑である。北部が調査区外に延びるため不明であるが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径2.23m以上、短径1.74m、深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は弥生土器の小片が出土しており、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



1 10YR 5/2 灰黄褐 砂混粘質土

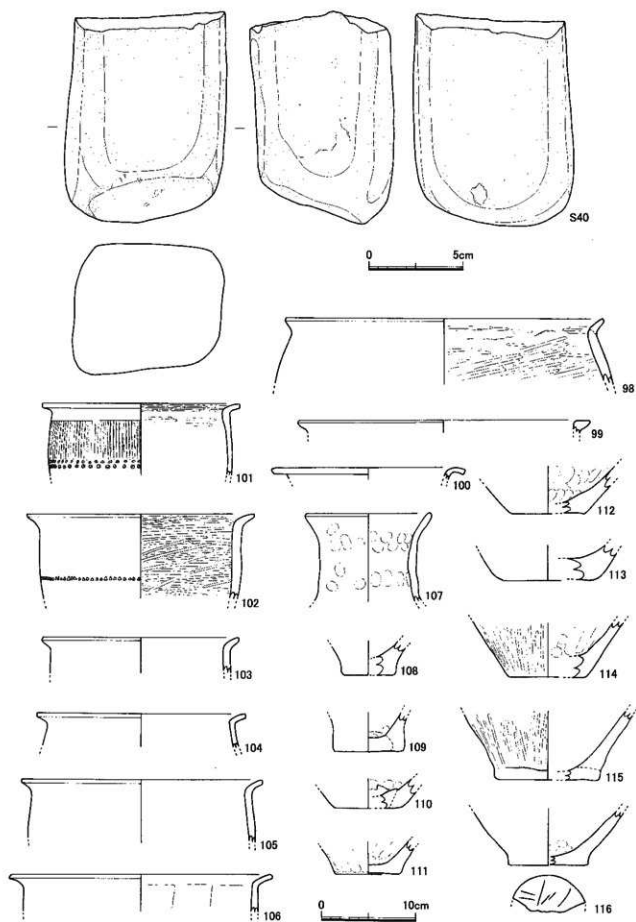
第48図 SK21004平・断面図



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土(炭含む)

2 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土(炭・土器含む)

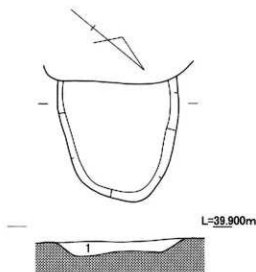
第49図 SK21005平・断面図



第50図 SK21005出土遺物実測図

SK21004 (第48図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21003に切られているが、平面形態は長方形を呈すると考えられ、長辺2.15m、短辺1.98m、深さ18cmを測る。断面形態は浅い皿状を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構SK21003に切られており、遺跡内で弥生時代中期前半以前の遺物が出土していないことから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



L=39.900m

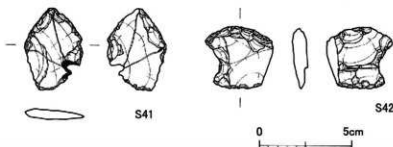
SK21005 (第49・50図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径3.86m、短径3.03m、深さ30cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は2層に分層できる。上層は灰黄褐色砂混粘質土、下層は黒褐色砂混粘質土である。上・下層とも炭を多く含んでいた。また、全体に遺物を包含するが、下層の中央から北側にかけては密集して出土した。

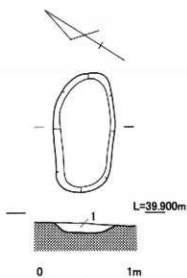
出土遺物は第50図に掲載した。石器はS40の砂岩の砥石だけである。各面とも平滑である。土器はすべて弥生土器である。98は如意状口縁の大型の甕である。内面ヨコヘラミガキである。99は逆し字状口縁の甕である。内外面ともナデである。100は如意状口縁の鉢である。内外面ともナデである。101は如意状口縁の甕で、口縁端部は角張る。外面粗いタテハケ、内面ヨコヘラミガキで、外面体部最大径付近に棒状工具による上下2個1対の刺突文を施している。102も如意状口縁の甕で、端部はど細くなる。外面ナデ、内面ヨコヘラミガキで、外面体部最大径付近に三角形を呈する刺突文を施している。103～106は如意状口縁の甕で、施文は見られない。107は広口壺である。長い頸部にわずかに反外する口縁部を持つ。やや粗製で、内外面に指

0 1m
1 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第51図 SK21006平・断面図



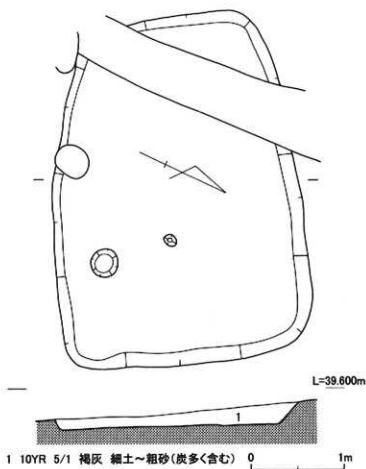
第52図 SK21006出土遺物実測図



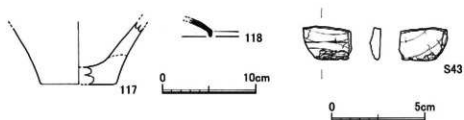
L=39.900m

1 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土

第53図 SK21007平・断面図



第54図 SK21008平・断面図



第55図 SK21008出土遺物実測図

頭圧を多く残す。108～116は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。116の底面には線刻が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

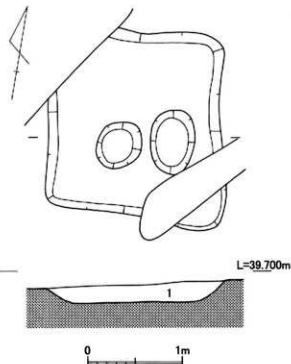
SK21006 (第51・52図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21005に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径1.3m以上、短径1.24m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。

出土遺物は第52図に掲載した。S41は小剥片を利用した石鏃の未製品と考えられる。S42は石庖丁である。側縁部に抉りを持つが、非常に小型であり、凹基式の石鏃の未製品の可能性も考えられる。石器しか出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構SK21005に切られていることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21007 (第53図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.25m、短径66cm、深さ10cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



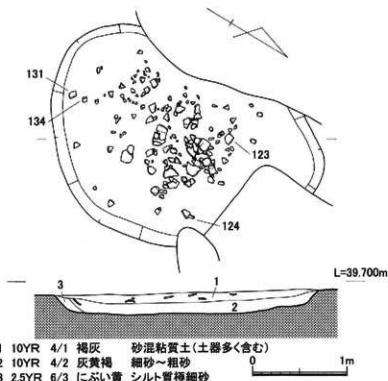
1 2.5Y 5/1 黄灰 砂混粘質土

第56図 SK21009平・断面図

SK21008 (第54・55図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SD21001に切られているが、平面形態は長方形を呈し、長辺3.68m、短辺1.24m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は炭を多く含む褐灰色細砂～粗砂の単層である。床面で、ビット2基を検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は第55図に掲載した。117は弥生土器の底部である。118は須恵器の蓋である。S43は削器である。遺構の時期については、118の須恵器が含まれることから古代の遺構の可能性も捨てきれないが、118以外は図示できなかった土器小片も含め、すべて弥生土器である。切り合い関係にあるSD21001が古代の遺構であることから、118の須恵器は混入品の可能性があり、弥生時代中期前半の可能性が高いと考えられる。

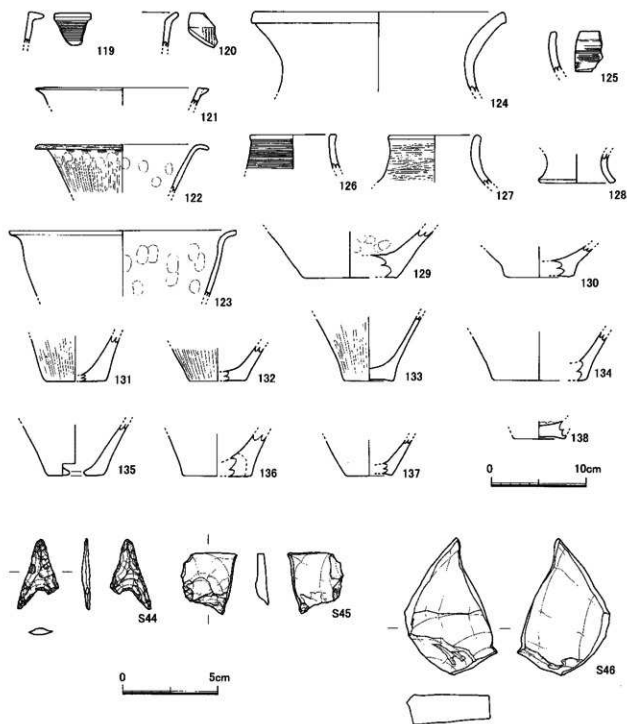


- 1 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土(土器多く含む)
- 2 10YR 4/2 灰黄褐 細砂～粗砂
- 3 2.5YR 6/3 にぶい黄 シルト質極細砂

第57図 SK21010平・断面図

SK21009 (第56図)

調査区の北西部で検出した土坑である。SK21005・SD21005に切られているが、平面形態は長方形を呈すると考えられ、長辺2.08m、短辺1.84m、深さ22cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黄灰色砂泥粘質土の単層である。床面で長径68cm、短径47cm、深さ5cmと、長径53cm、短径47cm、深さ3cmを測る2基の楕円形のピットを検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。遺物は出土していないが、弥生時代中期前半の遺構であるSK21005・SK21010と切り合い関係にあることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第58図 SK21010出土遺物実測図

SK21010 (第57・58図)

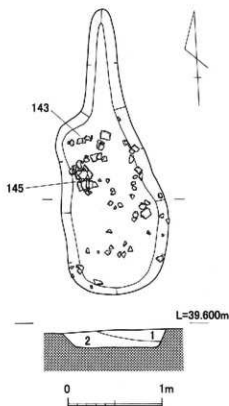
調査区の北西部で検出した土坑である。SK21009・SK21011に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径3.02m、短径1.84m、深さ23cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は褐灰色砂混粘質土、第2層は灰黄褐色細砂～粗砂、第3層はぶい黄色シルト質極細砂である。第3層は遺構の南端部分にのみ所在する土層である。全体に遺物を多く包含するが、特に遺構中央の上層で密集して出土した。

出土遺物は第58図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。119は逆L字状口縁の甕である。外面に多条の櫛描直線文を施している。120は如意状口縁の甕で、外面は粗いタテハケである。121は逆L字状口縁の鉢である。122は如意状口縁の鉢である。外面指頭圧後タテヘラミガキで、頭部のみタテハケである。内面指頭圧で、口縁部はヨコヘラミガキである。123も如意状口縁の鉢で、内面指頭圧である。124は広口壺である。125～128は無頸壺である。125・126は外面に多条の櫛描直線文を施している。127は口縁部の外反がきつく、外面ヨコヘラミガキ、内面ナデである。128は台付鉢の脚部である。129～138は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多く、135は底面に焼成前の穿孔が見られる。S44は凹基式の石鏃である。挟りは深い。S45は削器である。S46は剥片である。4方向に剥離面が見られる。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21011 (第59・60図)

調査区北西部で検出した土坑である。平面形態は長方形の長軸に突出部がつくような溝状を呈し、長径3.02m、短径1.10m、深さ19cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。第1層は暗灰黄色シルト質極細砂、第2層は黒褐色砂混粘土である。全体に遺物を多く包含するが、特に遺構中央の下層で密集して出土した。

出土遺物は第60図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。139～141は如意状口縁の甕である。内外面ナデで、体部上半に多条の櫛描直線文を施している。142は如意状口縁の甕で、体部外面に多条の櫛描直線文を施し、最下段に櫛描波状文を施している。143はくの字口縁の甕である。外面はタテハケ、内面は指頭圧後ヨコヘラミガキである。体部最大径付近に棒状工具による上下2個1対の刺突文を施している。144はふくらみを持たない体部からわずかに外反する口縁部を持つ如意状口縁の甕である。外面板ナデ、内面ナデである。145はくの字口縁の甕で、内外面ともタテヘラミガキである。146は無頸壺である。外面は5本一束の櫛描直線文を3原体施し、最下段に櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。147は広口壺で、大きく外反する口縁をもつ。内面指頭圧である。S47は石鏃である。体部と錐部の境は明瞭でなく、錐部のみ調整が見られる。S48は石庖丁である。背部のみ残る。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



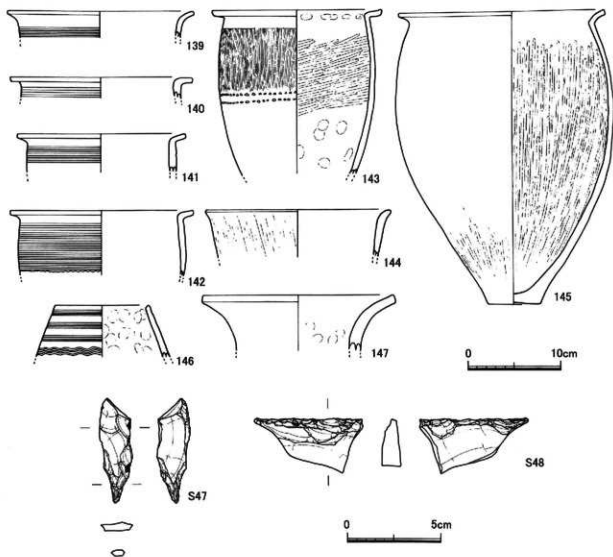
- 1 25Y 5/2 暗灰黄 シルト質極細砂
- 2 25Y 3/2 黒褐 砂混粘土(土器多く含む)

第59図 SK21011平・断面図

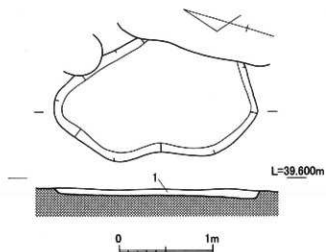
SK21012 (第61・62図)

調査区北西部で検出した土坑である。SK21011に切られているが、平面形態はやや不整な楕円形を呈すると考えられ、長径2.10m、短径1.32m、深さ10cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。

出土遺物は第62図148の土師器杯のみである。出土遺物から7～8世紀の遺構と考えられる。

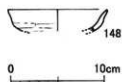


第60図 SK21011出土遺物実測図

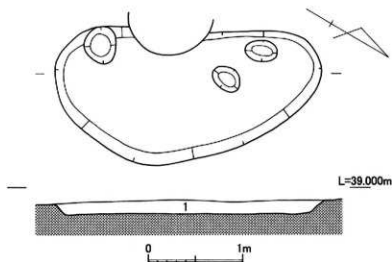


1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

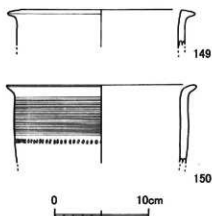
第61図 SK21012平・断面図



第62図 SK21012出土遺物実測図



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土
第63図 SK21013平・断面図



第64図 SK21013出土遺物実測図

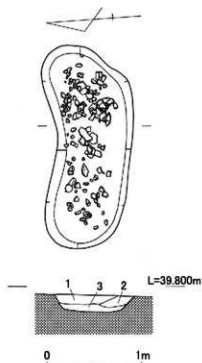
SK21013 (第63・64図)

調査区西部で検出した土坑である。SP21043に切られているが、平面形態は楕円形を呈すると考えられ、長径284cm、短径13cm、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。床面から長径35～40cm、短径22～32cm、深さ3～10cmのピットを3基検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は第64図に掲載した。149は弥生土器の逆L字状口縁の甕で、体部はふくらみを持たない。内外面ともナデである。150は弥生土器の如意状口縁の甕である。内外面ともナデである。体部上半に多条の櫛描直線文を施し、最下段に棒状工具による刺突文を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

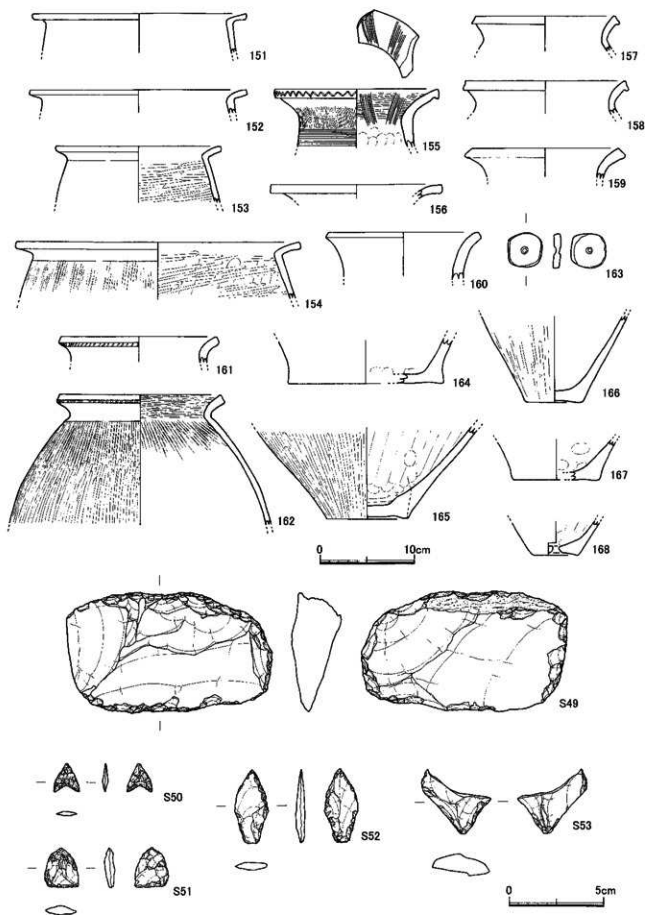
SK21014 (第65・66図)

調査区北西部で検出した土坑である。平面形態はやや不整な隅丸長方形を呈し、長辺2.15m、短辺93cm、深さ18cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1層は灰黄褐色砂混



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土
2 10YR 5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂
3 2.5Y 4/1 黄灰 シルト質極細砂

第65図 SK21014平・断面図



第66図 SK21014出土遺物実測図

粘質土、第2層はにぶい黄色砂混粘質土、第3層は黄灰色シルト質極細砂である。全体に遺物を多く包含するが、特に第1層部分において密集して出土した。

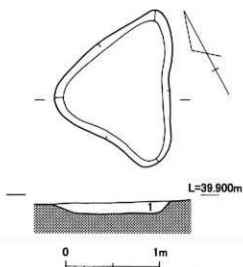
出土遺物は第66図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。151～154はくの字口縁の甕である。151は内外面ナデである。152はマメツが著しい。153は外面ナデ、内面ヨコヘラミガキである。154は外面粗いタテハケ、内面指頭ナデ後ヨコヘラミガキである。155は広口壺である。外面タテハケ、内面タテハケ及び指頭圧である。やや下方に拡張された口縁端部には山形文を施し、頸部には多条の櫛描直線文を施している。内面は櫛原体により頸部から口縁部に向かって放射状に施文されている。156は口縁部を大きく開く広口壺で、内外面ナデである。157～159は頸部が屈曲し、わずかに外反する短い口縁部を持つ広口壺で、端部を拡張させる。160は頸部から外反しながら口縁部に至る広口壺である。161・162は甕と広口壺の折衷的な形態である。口縁端部に刻目を施している。162は外面タテヘラミガキ、内面粗いタテハケで、口縁部はヨコヘラミガキである。163は紡錘車である。土器片を転用したもので、両面から穿孔を試みているが未貫通である。内外面ともナデである。164～168は底部である。外面タテヘラミガキ、内面指頭圧のものが多い。168は底面に焼成前の穿孔が見られる。S49は石庖丁である。背部に自然面を残し、分厚いつくりで、刃部の調整もわずかである。S50は凹基式の石鏃である。全体に細かく調整されている。S51は平基式の石鏃である。白色風化が著しく、全体に調整が粗い。S52は凸基式の石鏃である。剥離面を多く残し、細部調整もわずかである。S53は石鏃である。剥片の先端部をわずかに調整し錐部を作っている。全体に白色風化が著しい。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21015 (第67図)

調査区の北西部で検出した土坑である。平面形態は三角形を呈し、長辺1.65m、短辺1.23m、深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

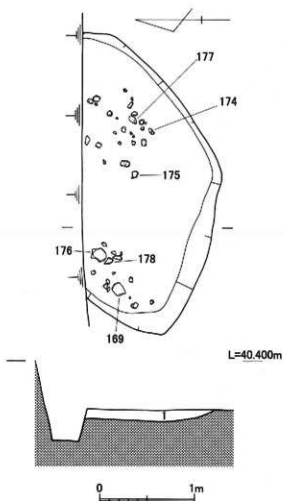
SK21016 (第68・69図)

調査区北端で検出した土坑である。北半がトレンチにより切られ、さらに調査区外へ延びるため、平面形態は不明である。検出部分の規模は長



1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土

第67図 SK21015平・断面図

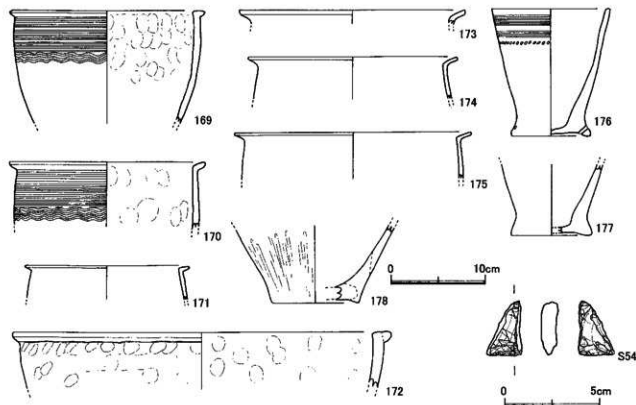


1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土

第68図 SK21016平・断面図

径3.3m, 短径2.1m, 深さ11cmを測る。断面形態は浅い皿状を呈し、埋土は灰黄褐色砂泥粘質土の単層である。遺構中央部はSB21001を構成する柱穴に切られている。全体に遺物を多く包含していた。

出土遺物は第69図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。169は逆し字状口縁の甕である。外面は7本一束の櫛描直線文を3条施し、最下段に櫛描波状文を施している。内面は指頭圧である。170は如意状口縁の甕で、外面は多条の櫛描直線文を施し、最下段に櫛描波状文を施している。外面ナデ、内面指頭圧である。171は口縁部を折り曲げ、逆し字状口縁としている甕である。172は逆し字状口縁の甕で、大型品である。内外面とも指頭圧である。173～175は如意状口縁の甕で、施文は見られない。176・177はコップ型の鉢で、底部を外方に拡張させている。176は体部上半に多条の櫛描直線文を施し最下段に棒状工具による刺突文が施文されている。また、底部には底面から外面に向けて斜めに2個1対で2方向に穿孔が施されており、経過し穴と考えられる。178は底部で、外面タテハラミガキである。S54は削器である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

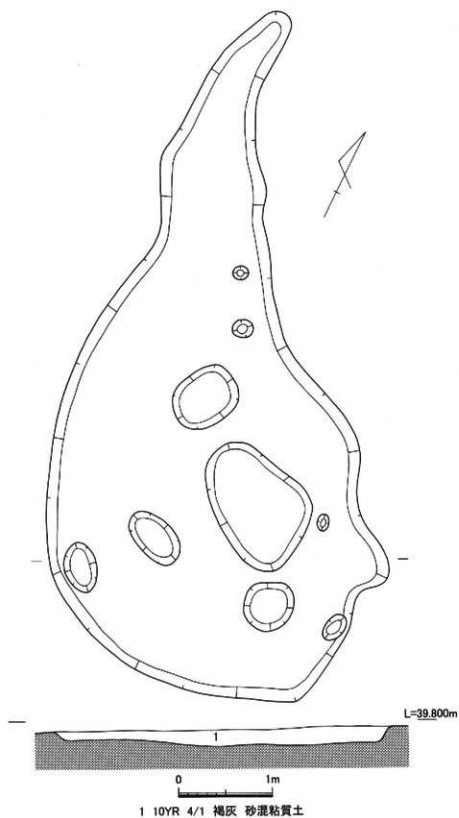


第69図 SK21016出土遺物実測図

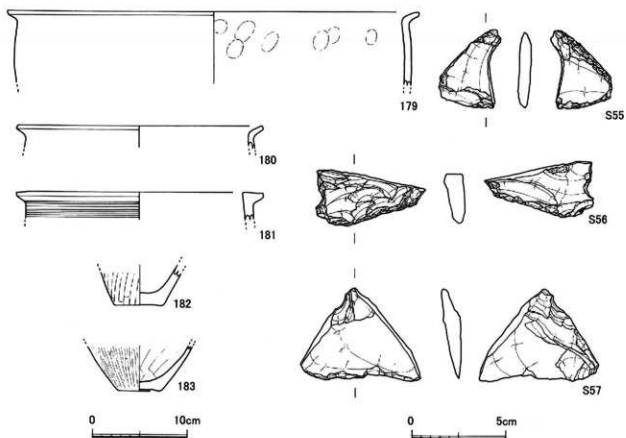
SK21017 (第70・71図)

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は不整形な滴形を呈し、長径7.05m, 短径3.75m, 深さ19cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。床面において長径1.42m, 短径97cm, 深さ10cmの土坑を中心に長径50～75cm, 深さ10～20cmのピットを3基検出した他、小型のピットも検出した。いずれも埋土は遺構埋土と同じであるが、遺構に伴うものかどうかは不明である。なお、床面の土坑を中心とした堅穴住居の残存部分であることも考えられるが、ピットの深さが浅く、その可能性は低いと考えられる。

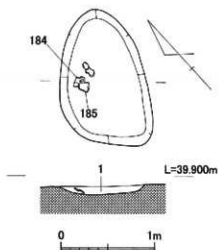
出土遺物は第71図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。179・180は如意状口縁の甕である。181は逆し字状口縁の甕である。内外面ともナデで、外面に多条の櫛描直線文を施している。182は底部で、外面板ナデ状のタテハラミガキである。183は底部で、外面タテハラミガキ、内面板ナデである。S55・S56は石庭丁である。S57は剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



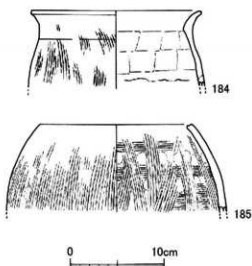
第70図 SK21017平・断面図



第71図 SK21017出土遺物実測図



1 10YR 5/2 灰黄褐 砂混粘質土



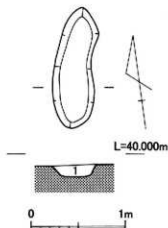
第73図 SK21018出土遺物実測図

第72図 SK21018平・断面図

SK21018 (第72・73図)

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.46m、短径93cm、深さ8cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。

出土物は第73図に掲載した。184は土師器の甕である。外面粗いタテハケ、内面板ナデである。185は土師器の甕で、頸部の接合面で剥離したものと考えられる。外面粗いタテハケ、内面指頭圧後粗いヨコハケ後粗いタテハケである。出土遺物から7～8世紀の遺構と考えられる。



1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

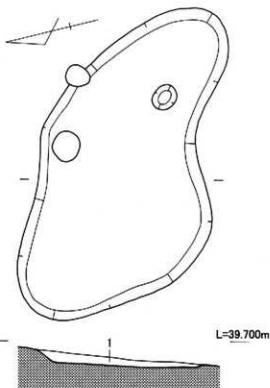
第74図 SK21019平・断面図

SK21019 (第74図)

調査区北部中央で検出した土坑である。平面形態は溝状を呈し、長径1.28m、短径44cm、深さ12cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21020 (第75図)

調査区中央で検出した土坑である。平面形態は不整形で、長径3.66m、短径2.1m、深さ11cmを測る。断面形態は浅い逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。床面で、長径28cm、短径22cm、深さ5cmのピットを検出したが、遺構に伴うものかどうかは不明である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

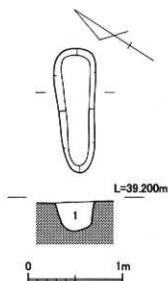
第75図 SK21020平・断面図

SK21021 (第76図)

調査区中央で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.31m、短径45cm、深さ30cmを測る。断面形態はU字を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

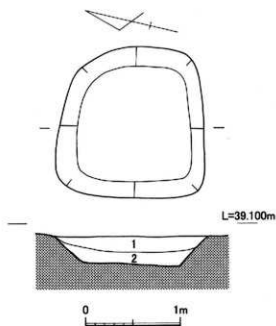
SK21022 (第77図)

調査区南部で検出した土坑である。SK21023と並んで所在する。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺1.60m、短辺1.54m、深さ31cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。第1層はにぶい黄橙色粗砂、第2層はにぶい黄褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、I区検出の近世以降の遺構埋土と類似することから、近世以降の遺構と考えられる。



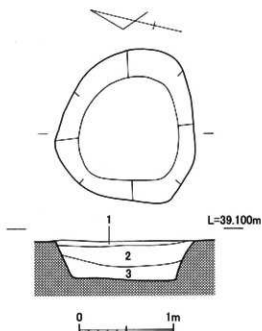
1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第76図 SK21021平・断面図



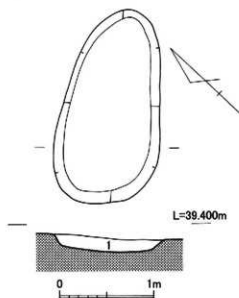
1 10YR 6/3 にぶい黄橙 粗砂
2 10YR 4/3 にぶい黄褐 粗砂

第77図 SK21022平・断面図



1 10YR 7/3 にぶい黄橙 粗砂
2 10YR 6/3 にぶい黄橙 粗砂
3 10YR 4/3 にぶい黄褐 粗砂

第78図 SK21023平・断面図



1 10YR 4/1 褐灰 細砂

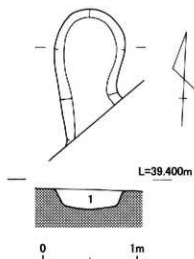
第79図 SK21024平・断面図

SK21023 (第78図)

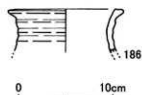
調査区南部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.62m、短径1.46m、深さ42cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は3層に分層できる。第1・2層はにぶい黄橙色粗砂、第3層はにぶい黄褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、SK21022と並列しており、ほぼ同じ埋土であることから、近世以降の遺構と考えられる。

SK21024 (第79図)

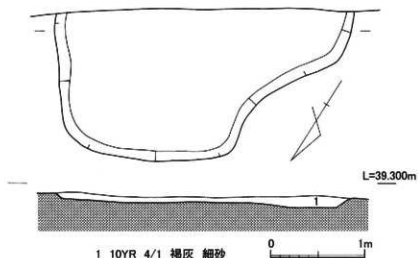
調査区南東部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径2.09m、短径1.12m、深さ14cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、後述するSK21025と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第80図 SK21025平・断面図



第81図 SK21025出土遺物実測図

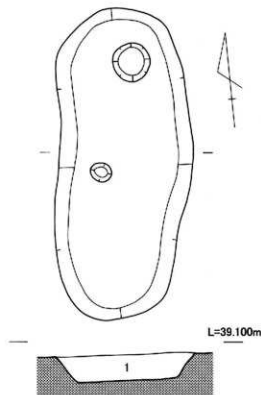


第82図 SK21026平・断面図

SK21025 (第80・81図)

調査区南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面形態は不明であるが、溝状を呈すると考えられる。検出部分の規模は長径1.34m、短径74cm、深さ21cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色細砂の単層である。

出土遺物は第81図186の弥生土器の広口壺だけである。頸部に凹線3条を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



SK21026 (第82図)

調査区南東部で検出した土坑である。南半が調査区外に延びるため平面形態は不明である。検出部分は長径3.16m、短径1.61m、深さ12cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄色細砂の単層である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、SK21025と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SK21027 (第83図)

調査区西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径3.3m、短径1.43m、深さ28cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂混粘質土の単層である。床面で直径23cmと40cm、深さ5cmのピットを検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

1 10YR 4/2 灰黄褐 砂混粘質土

第83図 SK21027平・断面図

SK21028 (第84～86図)

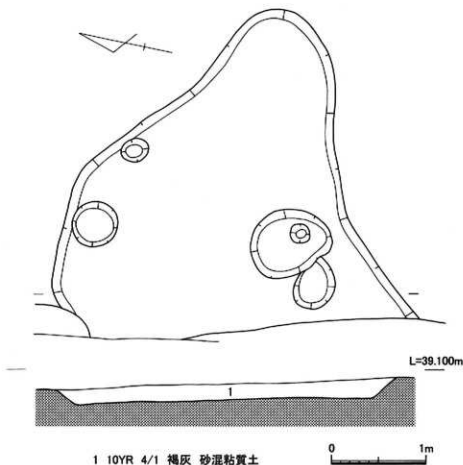
調査区西端で検出した土坑である。西半が調査区外に延びるため、平面形態は不明であるが、不整形な形態と考えられる。検出部分の規模は、長径3.66m、短径3.36m、深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂混粘質土の単層である。床面で遺構埋土と同じ埋土のピットを4基検出したが、遺構に伴うかどうかは不明である。

出土遺物は85・86図に掲載した。出土した土器はすべて弥生土器である。187は逆し字状口縁の甕である。188はく字口縁の甕である。189は広口壺である。内面指頭圧である。190はバケツ型の鉢である。体部はメツグが著しく文様構成は不明であるが、柳描直線文と柳描波状文を施しており、口縁端部には刻目が見られる。口縁部には2個1対の円孔が見られ、紐通し穴と考えられる。内面は指頭圧である。191～194は底部である。S58は磨製石庖丁で、側縁部に挟りを持つものである。S59は円基式の石鏡である。出土遺物から、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

86図は床面検出のピットから出土した遺物である。195・196とも弥生土器の底部である。いずれも弥生時代中期前半のものである。

SK21029 (第87図)

調査区北西部で検出した土坑である。平面形態は楕円形を呈し、長径1.09m、短径64cm、深さ31cmを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は2層に分層できる。第1層はにぶい黄褐色粗砂、第2層は暗褐色粗砂である。遺物は出土しておらず、遺構の詳細な時期は不明であるが、弥生時代中期前半の遺構と同じ埋土であることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



第84図 SK21028平・断面図

SD21001 (第88図)

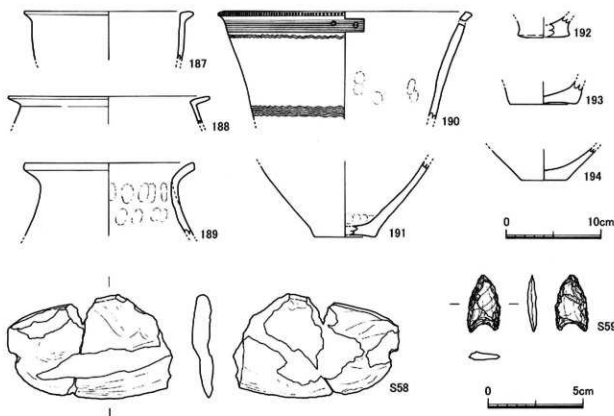
調査区西部で検出した南北方向の溝である。幅 60～80cm、深さ 30cm、検出部分の長さは 29.5m を測り、主軸方位は N-5°-W である。断面形態は逆台形を呈し、埋土は 3 層に分層できる。第 1 層は灰黄褐色砂混粘質土、第 2 層は褐灰色砂混粘質土、第 3 層は褐色粗砂である。出土遺物には弥生土器の小片が含まれるものの、弥生時代中期前半の遺構を切っており、溝の方位が周辺の古代条里地割に合致することから、7～8 世紀の遺構と考えられる。

SD21002 (第89図)

調査区北西部で検出した溝である。東端は SK21011、西側は SK21028、中央は SD21001 に切られている。幅 15～22cm、深さ 8cm、検出部分の長さは 4.2m を測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂混粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、弥生中期前半の遺構に切られていることから、それ以前の遺構と考えられる。

SD21003 (第23図)

調査区の南東部で検出した溝である。平面形態は東側を上にした F 字を呈する。北側に所在する東西方向の溝は幅 20～30cm、深さ 10cm、南北方向の溝のうち東側の溝は幅 20～45cm、深さ 10cm、南北方向の溝のうち西側の溝は幅 20～25cm、深さ 10cm を測る。断面形態はいずれも浅い U 字を呈し、埋土は灰色砂混粘質土の単層である。遺物は出土していないため、詳細な時期は不明である。なお、調査前の調査地状況は、当該溝の東西方向の溝部分を境に北側が高く、南側が低い上下 2 段の地割りになっていたことから、現在の地割りに近く、比較的新しい遺構と考えられる。



第85図 SK21028出土遺物実測図



第86図 SK21028内 ビット出土遺物実測図

SD21004 (第90・91図)

調査区南東部で検出した溝である。北東から南西方向に流れる溝で、やや蛇行する。幅1.3～2.5m、深さ18cm、長さ19.2mを測る。断面形態は逆台形を呈し、埋土は褐灰色砂泥粘質土の単層である。調査区の南東部には旧河道が所在していることが試掘調査により判明しており、SD21004もほぼ自然河道と同じ方向に流れるものであり、人為的な溝か、自然河道の一部であるかは不明である。

出土遺物は第91図197の弥生土器底部のみである。内外面マメツが著しい。出土遺物から弥生時代中期前半頃の遺構と考えられる。

SD21005 (第92図)

調査区北西部で検出した溝である。長さ1.58m、最大幅23cm、深さ12cmを測る。断面形態はやや丸みのあるV字を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘質土の単層である。切り合い関係にある遺構の遺物の混入の可能性もあるが、弥生土器の小片が出土しており、また、7～8世紀の遺構の方位とも異なることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SD21006 (第93図)

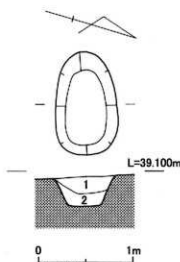
調査区南部で検出した溝である。長さ1.98m、最大幅24cm、深さ5cmを測る。断面形状は逆台形を呈し、埋土は黒褐色砂泥粘質土の単層である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、近

世以降の遺構であるSK21022に切られており、埋土が他の弥生中期前半の遺構と同じであることから、弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SP21043 (第23・96図)

調査区南西部で検出したビットである。平面形態は円形を呈し、直径90cm、深さ20cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

出土遺物は96図に掲載した。S60は石庖丁である。S61は凹基式の石甕である。粗雑なつくりで未製品の破損品の可能性が考えられる。S62は石錐である。錐部は短く太い。石器のみで、詳細な時期は不明であるが、出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐 粗砂
2 10YR 3/3 暗褐 粗砂

第87図 SK21029平・断面図

SP21086 (第23・95図)

調査区北西部で検出したビットである。SD21001及びSK21008に切られているが、平面形態は楕円形を呈していたと考えられ、長径73cm、短径40cm、深さ43cmを測る。断面形態はU字を呈し、他の遺構に切られており不明であるが、残存部の形状から判断すると、北東側だけ上部が緩やかに掘削されていたと考えられる。埋土は2層に分層できた。第1層は炭を含む暗灰色砂泥粘質土、第2層は炭を含む褐色砂泥粘質土である。

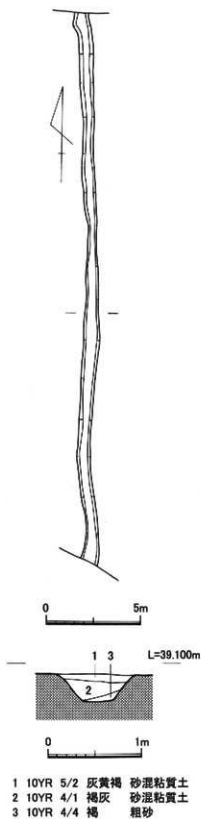
出土遺物は第95図に掲載した。198は弥生土器の甕である。底径は小さく、下半は急な立ち上がりで、細身の体部は最大径付近から上部をほぼ直立させ、口縁部はわずかに外方へ屈曲させる如意状口縁である。外面はタテヘラミガキ、内面はタテヘラミガキ後上半のみヨコヘラミガキである。199は弥生土器の無頸壺である。下彫れの体部で、口縁部分はわずかに外反する。外面はタテハケ後下半のみタテヘラミガキ、内面上半は指頭圧、下半はタテハケ、底面はナデである。外面上半は9本一束の櫛描直線文と櫛描波状文を交互に3回施文している。体部下半には焼成時に弾けた痕跡を残している。また、その反対側には体部中央に黒斑が認められる。200は広口壺である。口縁部と頸部から体部上半の破片であり、接合しないが色調や胎土が似ていることから同一個体と考えられる。口縁部の破片は端部を四角に角張らせており、端面に斜格子文を施している。内外面ともヨコナデである。頸部から体部上半の破片は、外面ナデ、内面指頭圧である。頸部外面に押圧突帯を巡らせており、さらに体部上半には9本一束の櫛描直線文と櫛描波状文を施している。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

出土遺物のうち、200の広口壺は埋土上層から小片に分かれて出土したが、ビットの南西部において口縁部をやや南に傾けられた状態で199の無頸壺が所在し、その無頸壺に北東側から倒れ掛かるといった状態で198の甕が出土した。199は完形品であり、198もSD21001に切られた部分まではほぼ残存しており、本来は完形品であった可能性が考えられる。なお、199は体部下半に焼成時に弾けた痕跡を残しているものの、入念な調整によるためか、胎土に含まれる砂粒の量は表面上目立たない。また、調整や文様、さらには色調からも秀麗な印象を受ける土器である。また、198は、非常にしろい土器ではあるものの、入念なミガキが施されており、細身の器形は特徴的である。以上のように、土器の選定から土器の出土状況まで意図的であり、人為的に埋納されたと考えられる。なお、それぞれの土器の内部の土をふるいにかけたが、埋土に包含される微小な炭は含まれていたが、他には何も認められなかった。

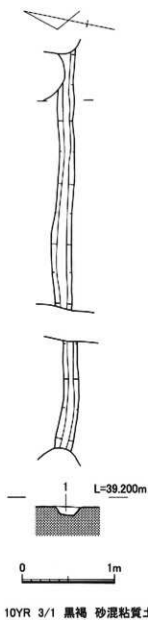
SP21102 (第23・96図)

調査区北西部で検出したビットである。平面形態は円形を呈し、直径60cm、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

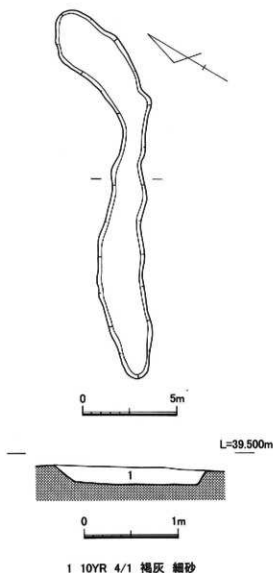
出土遺物は96図に掲載した。S63は凹基式の石甕である。細長い形態で、先端部を欠く。出土遺物から弥生時代中期前半の可能性が考えられるが、古代の掘立柱建物跡SB21001の南辺柱穴列の延長部分で、ほぼ等間隔に並ぶ4基のビット群の1つであり、古代の遺構の可能性も考えられる。



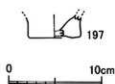
第88図 SD21001平面図(S=1/200)
及び断面図(S=1/40)



第89図 SD21002平・断面図



第90図 SD21004平面図 (S=1/200)
及び断面図 (S=1/40)



第91図 SD21004出土遺物実測図

SP21209 (第23・96図)

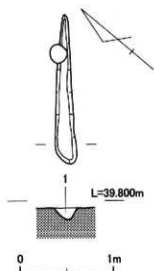
調査区中央部で検出したビットである。平面形態は円形を呈し、直径30cm、深さ20cmを測る。断面形態はU字を呈する。

出土遺物は96図に掲載した。S64は石庖丁である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。

SP21216 (第23・96図)

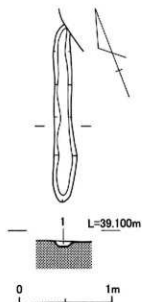
調査区中央部で検出したビットである。平面形態は楕円形を呈し、長径30cm、短径20cm、深さ20cmを測る。断面形態はU字を呈する。

出土遺物は96図に掲載した。S65は剥片である。出土遺物から弥生時代中期前半の遺構と考えられる。



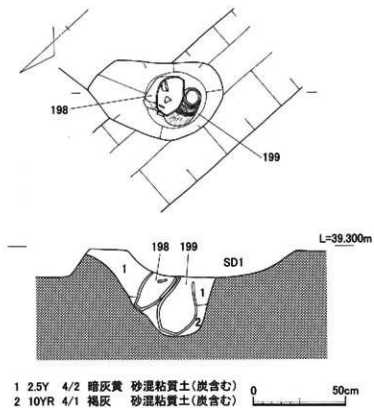
1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第92図 SD21005平・断面図



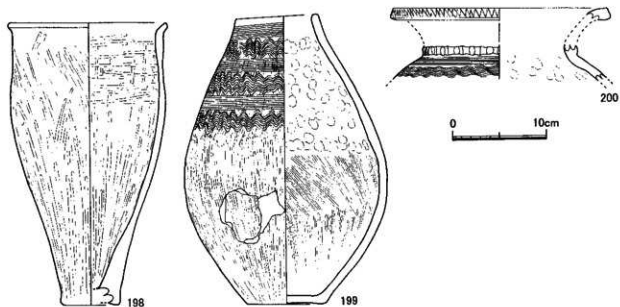
1 10YR 3/1 黒褐 砂混粘質土

第93図 SD21006平・断面図

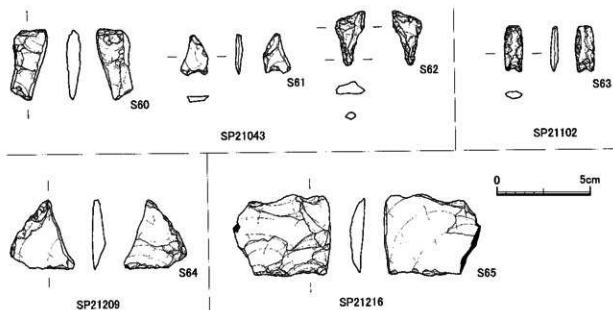


1 2.5Y 4/2 暗灰黄 砂混粘質土(炭含む)
2 10YR 4/1 褐灰 砂混粘質土(炭含む)

第94図 SP21086平・断面図(S=1/20)



第95図 SP21086出土遺物実測図



第96図 ビット出土遺物実測図

第4章 まとめ

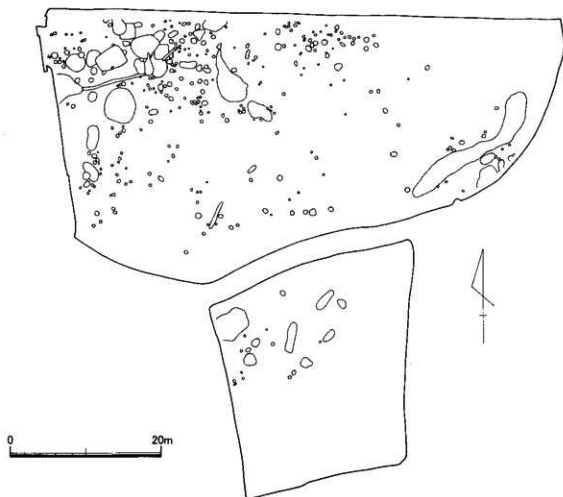
第1節 遺構の変遷について

奥の坊遺跡は、主に弥生時代中期前半の集落遺跡で、近世までの遺構・遺物が検出されている。南向きの緩斜面に営まれた集落のほぼ全域を発掘調査しており、今回の報告書では、その南端部分しか紹介できていないが、本報告書で取り上げたⅠ・Ⅱ区の遺構の変遷を考えたい。Ⅰ・Ⅱ区においては、弥生時代中期前半、古代、近世以降の3時期の遺構・遺物が検出されている。

弥生時代中期前半

当概調査区で最も多く遺構・遺物を検出した時期である。調査地は南向きの緩斜面となっており、出土遺物の大半は包含層中のもので、Ⅱ区北側のⅢ・Ⅵ区の集落の中心部から流れ込んだものと考えられる。土器に比して石器の量が多く、素材剥片を含む剥片類や未製品も見られる。なお、Ⅲ・Ⅵ区の集落中心部の調査では、その傾向が顕著に見られ、石器の制作を行っていたと考えられる。

遺構はSH12001、SH21001～21003の4棟の竪穴住居を検出している。土坑や柱穴も多く検出しており、集落域であったと考えられる。遺構の分布は、調査地の北東部が削平されていることもあるが、概ねⅡ区北西部に偏る傾向を示し、Ⅰ区南半では全く検出していない。このため、Ⅰ区北半部分が集落域の南限であると考えられる。なお、試掘調査において、Ⅱ区東側からⅠ区南側へ流れる深い旧河道の存



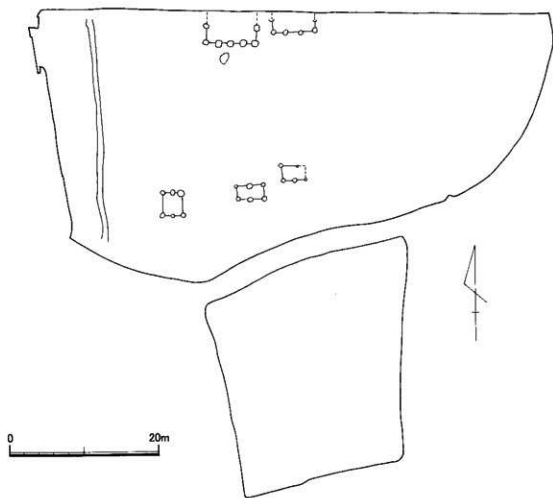
第97図 弥生時代中期前半の遺構平面図

在が確認されており（大嶋 1999）、I 区西側も現況で 1m 以上の段差が見られることから、地形的な制約を受けたと考えられる。

古代

包含層中には一定量の土師器や須恵器が見られることから、古代の遺構が想定されるが、確実な古代の遺跡としては、土師器の甕が出土した SK21018 のみである。遺物は出土していないが古代の遺構と考えられるものは、主軸方位がほぼ南北を示す溝 SD21001 及び主軸方位がほぼ東西を示す掘立柱建物跡 SB21001 ～ 21005 の 5 棟があげられる。本報告書では掲載していないが、東側に隣接する奥の坊権現前遺跡で検出した溝 SD53001 は、ほぼ東西方向の主軸をとり、その延長部分と考えられる溝が北側のⅢ区で検出されていることから、古代の遺構と考えられる。また、奥の坊権現前遺跡においては、SD53001 の南側において掘立柱建物跡を 2 棟検出しており、今回の調査区でも、同様の傾向が認められ、古代においては奥の坊権現前遺跡と一体の集落であったと考えられる。

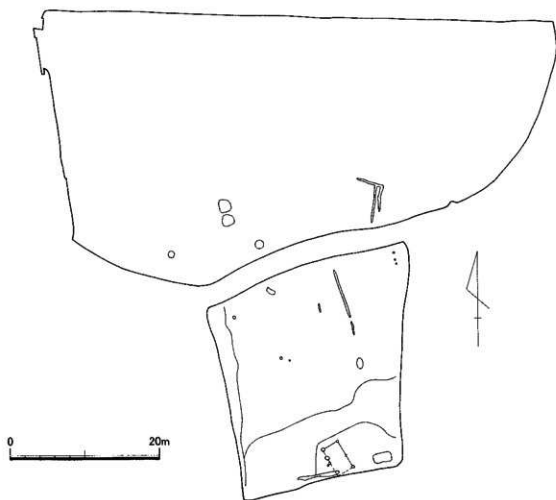
なお、今回の調査で検出した古代の遺構は、巨視的に見れば、約 800 ～ 900m 西側に所在する小山谷遺跡や新田本村遺跡において検出された $N - 5^{\circ} - E$ の方位の条里地割を基準としていると考えられる。同方位は山田郡の条里地割 $N - 11^{\circ} - E$ と異なる異方位条里地割であることから、山田郡北部条里地割と呼称されている（藤好 1997）。



第98図 古代の遺構平面図

近世以降

今回の調査では、Ⅱ区において近世の遺構面を調査しておらず、またⅡ区東半の削平が著しいことから、正確な遺構の分布状況をつかむことはできない。近世以降としたが、さらに2時期に細別できる。当該期で最も古い遺構は、Ⅰ区南東端で検出した土坑SK11001で、中世末～近世初頭の時期が考えられる。しかし、同時期と考えられる遺構は他に無い。その他の検出遺構は概ね19世紀以降のものと考えられる。Ⅰ区南端において掘立柱建物跡SB11001を検出しており、その北側を自然河遺NR11001が東から南へ向かって流れている。なお、自然河遺より北側については、小規模な土坑やピットはあるものの、鋤溝なども見られることから、耕作地として利用されていたことがうかがえる。



第99図 近世以降の遺構平面図

第2節 高松平野における石器素材剥片

香川県は、石器の素材として利用されるサヌカイトの原産地である。旧石器時代から使用されており、その流通は広範囲にわたる。石器の流通には、製品が運ばれる場合と、素材が運ばれ集落内で生産される場合が考えられる。奥の坊遺跡では、石器が多量に出土すること、剥片が多量に出土すること、未製品が一定量含まれること、定型化しない不整形な石器が多いことから、石器の製作を行っていたと考えられ、Ⅱ区ではサヌカイトの大型素材剥片（第100図1・2）が出土しており、素材を搬入していたことが伺える。

高松平野内での大型素材剥片については不明であったが、近年その報告例が散見できる。今回は概ね200g以上の素材剥片を対象とし集成を行った。高松平野で最も古い事例は、鬼無藤井遺跡出土のもので、弥生時代前期前半～中葉と考えられる。それ以前の様相については、高松平野においては、遺跡数が少ないこともあり不明である。同じく前期と考えられるものは、空港跡地遺跡出土のものである。中世の井戸から出土しているため詳細は不明であるが、周辺に弥生時代前期末の遺構が認められることから、混入の可能性が考えられる。弥生時代中期になると報告例が多く、奥の坊遺跡をはじめ、多肥松林遺跡や浴・長池遺跡において出土しており、素材が多く流通していたと考えられる。特に、浴・長池遺跡では2800gの素材剥片が出土しており、高松平野で最大のものである。一方、弥生時代後期から終末期の遺跡からの報告例は見られない。このため、石器生産のあり方や流通の変化があったことが予想される。

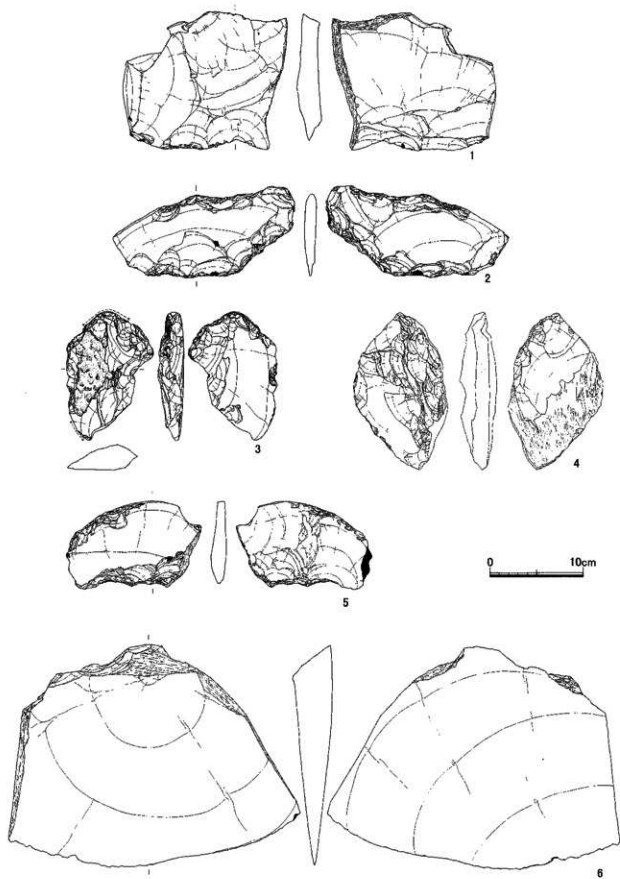
また、素材剥片は3種類に分類できる。まずⅠ類として、第100図1・6・第101図7のように特に大きいもので、自然面や大剥離面を残し、重量が重いものが見られる。石材採取地において採取された状態に近いと考えられる。次にⅡ類として、3・4のようにやや厚く打割され、石核状を呈したもので、周囲に剥離痕が見られる。また、Ⅲ類として2・5に見られるように、やや小振りに打割され、扁平な形態を呈し、周囲を打ち欠いているものが認められる。これらは、未製品の状態に近く、細部調整を行えば十分石器として使用できるようなものである。なお、Ⅰ～Ⅲ類の剥片形態差による分布や時期的な差は認められない。Ⅰ類は確実に石器採取地から直接搬入されたものと考えられるが、Ⅱ・Ⅲ類は石材採取地で打割されたものであるか、各集落内においてⅠ類から打割されたものであるかは不明である。今後の発掘調査成果で明らかになることを期待する。

高松平野出土の大型素材剥片(概ね200g以上のもの)

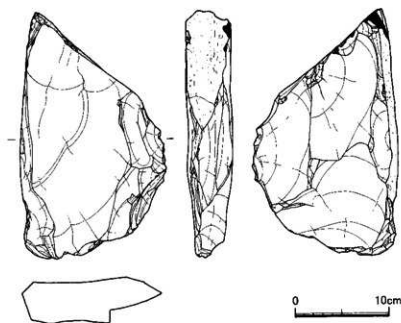
	遺 跡 名	遺 構 名	長 辺	短 辺	厚 み	重 量	時 期
1	奥の坊遺跡	包含層	17.6cm	14.6cm	2.6cm	700.0g	中期前半末
2	奥の坊遺跡	包含層	19.5cm	9.6cm	1.3cm	291.6g	中期前半末
3	多肥松林遺跡	予備調査 11 トレンチ SR	12.5cm	8.1cm	2.8cm	277.6g	中期中葉～後半
4	空港跡地遺跡 V	SEa01	15.6cm	9.9cm	4.0cm	529.7g	不明(前期末?)
5	浴・長池遺跡	3区(未報告資料)	14.5cm	9.3cm	1.7cm	222.7g	中期中葉
6	浴・長池遺跡	SR01(未報告資料)	31.0cm	23.3cm	4.2cm	2800.0g	中期中葉
7	鬼無藤井遺跡	SP - A2 - 01	25.9cm	15.5cm	4.8cm	2200.0g	前期前半～中葉

参考文献

- 井上勝之 1980「サヌカイト製石器の製作址」『香川県自然科学館研究報告 第2巻』香川県自然科学館
- 大嶋和則 1999「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 奥の坊遺跡群Ⅰ」高松市教育委員会
- 大嶋和則 2000「都市計画道路宮町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 川南・東遺跡」高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 奥の坊遺跡群Ⅱ」高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 奥の坊遺跡群Ⅲ」高松市教育委員会
- 大嶋和則 2004「高松市指定史跡 久本古墳」高松市教育委員会
- 大嶋和則 2006「高松市東部運動公園(仮称)整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 奥の坊遺跡群Ⅳ」高松市教育委員会
- 小川 賢 2001「高松港地区内閉鎖事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 鬼無藤井遺跡」高松市教育委員会
- 片桐孝治 1994「国道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 小山・南谷遺跡 平成5年度」香川県教育委員会
- 片桐孝治 1997「国道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 小山・南谷遺跡Ⅰ」香川県教育委員会



第100図 高松平野出土の大型素材剥片①(S=1/4)



第101図 高松平野出土の大型素材剥片②(S=1/4)

木下晴一 2000 『県道高松志度線緊急整備工事および県立西府短期大学建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 原中村遺跡』香川県教育委員会

木下晴一 2002 『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第5冊 空港跡地遺跡V』香川県教育委員会

成木晋司・森下友子 1992 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡』香川県教育委員会

菅束太郎 1992 『弥生時代の石器生産と流通 - 讃岐半野における - 様相と近畿地域との関連性 -』『同志社大学考古学シリーズ V 考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会

高田浩司 2001 『古墳における弥生時代中期における石器の生産と流通』『古代吉備 第23集』

高田浩司 2002 『中部瀬戸内と畿内の打製石器 - その経済的側面と観念的側面 -』『考古学研究 第49巻 第1号』

中西克也 2006 『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 新田本村遺跡』高松市教育委員会

西岡達哉 2003 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第四十六冊 池の奥遺跡・金毘羅山遺跡Ⅱ』香川県教育委員会

森井雄三・山本英之 1989 『久米池山遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会

古高松郷土誌編集委員会 1977 『古高松郷土誌』

藤好史郎・西村寿文 1990 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅵ 下川津遺跡』香川県教育委員会

藤好史郎 1997 『原島城と城山城 - 古代山城研究の一視点 -』『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅵ』香川県埋蔵文化財調査センター

森格也 1995 『高松平野における弥生時代の石器生産と流通』『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 上天神遺跡』香川県教育委員会

森格也 1997 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第7冊 横部・川田遺跡Ⅰ』香川県教育委員会

山下平重 1999 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡』香川県教育委員会

山下平重 2000 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十六冊 金毘羅山遺跡Ⅰ・塔の山遺跡・庵の谷遺跡』香川県教育委員会

山本英之・山元敏裕 1993 『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 沿・長池遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕 1995 『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 井手東1遺跡』高松市教育委員会

山元敏裕・末光甲正 1999 『都市計画道路室町新田線埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川南・西迫跡』高松市教育委員会

山元敏裕 2003 『史跡天然記念物原島 - 史跡天然記念物原島基礎調査事業調査報告書Ⅰ -』高松市教育委員会

觀 察 表

土器観察表

序号	器種	年代	産地名	通高(cm)	口径	底径	備品	外 面	内 面	色 調	胎土	備考
1	弥生土器 土器	14	5K12005	5.2	(5.7)			ナデヘラミナ	新ナデ	(上=外底、下=内底) 5YR4/4 に近い赤褐色 7.5YR5/4 に近い黄褐色 7.5YR5/3 に近い黄褐色 7.5YR5/3 に近い黄褐色	やや中 2cm以下の石片・黒石を含む	良好
2	弥生土器 土器	20	5K11002	33.0	(10.0)			縄文・ナデのミナヘラミナ	新ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
3	弥生土器 土器	22	5K11001	7.2	(2.3)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
4	弥生土器 土器	22	5K11001		(1.3)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
5	弥生土器 土器	26	弥生層	24.6	(16.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
6	弥生土器 土器	26	弥生層	18.0	(11.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
7	弥生土器 土器	26	弥生層	20.4	(17.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
8	弥生土器 土器	26	弥生層	17.2	(15.7)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
9	弥生土器 土器	26	弥生層		(4.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
10	弥生土器 土器	26	弥生層	23.0	(17.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
11	弥生土器 土器	26	弥生層	20.0	(8.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
12	弥生土器 土器	26	弥生層	23.0	(5.3)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
13	弥生土器 土器	26	弥生層	24.4	(9.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
14	弥生土器 土器	26	弥生層	20.8	(4.9)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
15	弥生土器 土器	26	弥生層	32.2	(8.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
16	弥生土器 土器	26	弥生層	28.0	(10.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
17	弥生土器 土器	26	弥生層	30.4	(4.5)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
18	弥生土器 土器	26	弥生層	36.3	(8.4)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
19	弥生土器 土器	26	弥生層	33.4	(10.4)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
20	弥生土器 土器	26	弥生層	20.0	(3.1)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
21	弥生土器 土器	27	弥生層	21.7	(8.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
22	弥生土器 土器	27	弥生層	21.6	(5.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
23	弥生土器 土器	27	弥生層	20.4	(7.1)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
24	弥生土器 土器	27	弥生層	23.8	(4.1)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
25	弥生土器 土器	27	弥生層	26.8	(4.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
26	弥生土器 土器	27	弥生層	18.0	(5.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
27	弥生土器 土器	27	弥生層	16.2	(3.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
28	弥生土器 土器	27	弥生層	3.1	(5.7)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
29	弥生土器 土器	27	弥生層		(7.5)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
30	弥生土器 土器	27	弥生層	13.0	(2.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
31	弥生土器 土器	27	弥生層	29.0				ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
32	弥生土器 土器	27	弥生層	18.7	(3.6)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
33	弥生土器 土器	27	弥生層	15.2	(0.9)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
34	弥生土器 土器	27	弥生層	10.0	(3.7)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
35	弥生土器 土器	27	弥生層	16.0	(3.4)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
36	弥生土器 土器	27	弥生層	16.2	(8.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
37	弥生土器 土器	27	弥生層	15.4	(7.1)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
38	弥生土器 土器	28	弥生層	9.0	(4.5)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
39	弥生土器 土器	28	弥生層	11.6				ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
40	弥生土器 土器	28	弥生層		(7.8)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
41	弥生土器 土器	28	弥生層		(8.2)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
42	弥生土器 土器	28	弥生層	28.0	(8.7)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
43	弥生土器 土器	28	弥生層	23.4	(5.3)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
44	弥生土器 土器	28	弥生層	21.6	(4.1)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
45	弥生土器 土器	28	弥生層	6.4	(4.0)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
46	弥生土器 土器	28	弥生層	3.8	(4.5)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好
47	弥生土器 土器	28	弥生層	6.0	(3.4)			ナデ	ナデ	10YR6/2 灰白 10YR6/2 灰白 7.5YR7/1 黄褐色	黒褐色	良好

番号	名称	所在地	面積(m ²)	用途	外 面	内 面	色 澤 (上=黒色、下=白色)	地 質	備 考
48	衛生工務 部	28	包合庫	7.8 (3.1)	ナテヘラミガキ	指原庄	5YR6/6 緑 10YR6/2 緑黄緑	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良好
49	衛生工務 部	28	包合庫	4.8 (7.8)	ナテヘラミガキのち指原庄	指原庄・ナテ	5YR6/6 緑 10YR6/4 に近い黄緑	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
50	衛生工務 部	28	包合庫	6.0 (3.2)	指原庄	ナテ	7.5YR7/4 に近い緑 2.5YR5/2 黄緑	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
51	衛生工務 部	28	包合庫	5.2 (3.0)	ナテヘラミガキ	ナテ	7.5YR6/3 に近い緑 10YR6/2 に近い黄緑	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
52	衛生工務 部	28	包合庫	5.1 (3.1)	ナテヘラミガキ	指原庄	5YR6/6 緑黄緑	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
53	衛生工務 部	28	包合庫	11.2 (4.7)	ナテヘラミガキ	指原庄	7.5YR6/3 緑 2.5YR5/2 黄緑	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
54	衛生工務 部	28	包合庫	5.9 (4.0)	指原庄のち指原庄	マツ	2.5YR6/3 に近い黄緑 2.5YR6/4 に近い黄緑	やや粗 50cm以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良
55	衛生工務 部	28	包合庫	7.0 (3.8)	ナテヘラミガキ	マツ	2.5YR6/6 緑 10YR6/4 に近い黄緑	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良好
56	衛生工務 部	28	包合庫	9.6 (5.3)	ナテヘラミガキ	マツ	7.5YR6/6 緑 10YR6/4 黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
57	衛生工務 部	28	包合庫	6.6 (3.8)	マツ	指原庄	10YR6/3 に近い黄緑 10YR6/4 に近い黄緑	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良
58	衛生工務 部	28	包合庫	7.6 (3.6)	ナテ	ナテ	10YR6/3 に近い黄緑 10YR6/4 に近い黄緑	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良
59	衛生工務 部	28	包合庫	11.2 (3.7)	ナテ	指原庄	5YR6/6 緑 7.5YR6/6 黄	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良
60	衛生工務 部	28	包合庫	5.4 (4.1)	マツ	マツ	7.5YR6/6 黄 1.5YR6/6 黄	やや粗 40cm以下の石炭・長石含む	良好
61	衛生工務 部	28	包合庫	10.2 (3.4)	マツ	マツ	2.5YR6/6 黄 2.5YR6/6 黄	やや粗 30cm以下の石炭・長石含む	良好
62	衛生工務 部	28	包合庫	9.6 (4.8)	マツ 西向き1.5m2方向	マツ	10YR6/4 に近い黄緑 10YR6/2 黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
63	衛生工務 部	28	包合庫	7.8 (3.4)	ナテ	ナテ	7.5YR6/6 黄 10YR6/4 黄	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良
64	衛生工務 部	28	包合庫	21.0 (4.3)	マツ	マツ	10YR6/4 黄 10YR6/4 黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
65	衛生工務 部	28	包合庫	15.4 (3.0)	マツ	指原庄	10YR6/4 に近い黄緑 7.5YR6/2 黄	やや粗 30cm以下の石炭・長石含む	良好
66	衛生工務 部	28	包合庫	17.0 (3.4)	ナテ	ナテ	10YR6/6 黄 10YR6/6 黄	やや粗 30cm以下の石炭・長石含む	良好
67	衛生工務 部	28	包合庫	12.8 (3.2)	ナテ	ナテ	2.5YR6/4 に近い黄緑 2.5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
68	衛生工務 部	28	包合庫	6.0 (2.0)	指原庄	指原庄	2.5YR6/2 黄 2.5YR6/2 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	不良
69	衛生工務 部	28	包合庫	9.6 (2.5)	マツ	マツ	5YR6/2 黄 5YR6/2 黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	不良
70	衛生工務 部	28	包合庫	3.8 (1.2)	指原庄	指原庄	2.5YR6/2 黄 2.5YR6/2 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
71	衛生工務 部	28	包合庫	6.6 (1.6)	指原庄	指原庄	5YR6/1 黄 7.5YR6/1 黄	粗 10cm以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良
72	衛生工務 部	28	包合庫	13.7 (1.4)	指原庄	指原庄	5YR6/1 黄 5YR6/1 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
73	衛生工務 部	28	包合庫	4.8 (1.5)	マツ	マツ	5YR6/4 に近い黄 2.5YR6/4 に近い黄	やや粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
74	衛生工務 部	28	包合庫	6.0 (2.4)	マツ	指原庄	2.5YR6/6 黄 5YR6/6 黄	やや粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
75	衛生工務 部	28	包合庫	11.1 (3.6)	マツ	指原庄	10YR6/4 に近い黄 7.5YR6/4 に近い黄	やや粗 50cm以下の石炭・長石含む	良
76	衛生工務 部	28	包合庫	6.2 (3.5)	ナテヘラミガキ	指原庄	2.5YR6/2 黄 7.5YR6/3 に近い黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
77	衛生工務 部	45	包合庫	18.4 (2.8)	ナテ	ナテ	7.5YR6/3 に近い黄 7.5YR6/4 に近い黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
78	衛生工務 部	45	包合庫	23.8 (2.4)	マツ	マツ	7.5YR6/6 黄 7.5YR6/6 黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
79	衛生工務 部	45	包合庫	25.6 (2.8)	マツ	マツ	7.5YR6/6 黄 7.5YR6/6 黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
80	衛生工務 部	45	包合庫	18.8 (2.8)	マツ	ヨコヘラミガキ	7.5YR6/4 に近い黄 7.5YR6/4 に近い黄	やや粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
81	衛生工務 部	45	包合庫	18.0 (4.5)	マツ	ヨコヘラミガキのちナテヘラミガキ	5YR6/6 黄 2.5YR6/6 黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	良好
82	衛生工務 部	45	包合庫	19.2 (3.6)	マツ	指原庄	5YR6/6 黄 7.5YR6/6 黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
83	衛生工務 部	45	包合庫	19.0 (3.5)	ナテヘラミガキ 指原庄	指原庄のちヨコヘラミガキ	7.5YR6/4 に近い黄 7.5YR6/4 に近い黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
84	衛生工務 部	45	包合庫	18.0 (2.2)	ナテ	ナテ	5YR6/6 黄 5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
85	衛生工務 部	45	包合庫	19.2 (3.0)	ナテ	ナテ	5YR6/4 に近い黄 5YR6/4 に近い黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
86	衛生工務 部	45	包合庫	13.8 (3.8)	ナテヘラミガキ	指原庄	5YR6/6 黄 2.5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好
87	衛生工務 部	45	包合庫	19.8 (3.8)	マツ	指原庄	5YR6/4 に近い黄 10YR6/4 に近い黄	粗 10cm以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良
88	衛生工務 部	45	包合庫	18.0 (2.8)	ナテヘラミガキ 指原庄のちナテヘラミガキ	指原庄	5YR6/6 黄 10YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良好
89	衛生工務 部	45	包合庫	8.0 (2.8)	マツ	マツ	5YR6/6 黄 5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
90	衛生工務 部	45	包合庫	6.0 (3.7)	マツ	マツ	10YR6/6 黄 10YR6/6 黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
91	衛生工務 部	45	包合庫	12.7 (2.7)	マツ	指原庄	10YR6/4 に近い黄 10YR6/4 に近い黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
92	衛生工務 部	45	包合庫	7.8 (3.8)	ナテ	ナテ	2.5YR6/3 に近い黄 10YR6/6 黄	粗 20cm以下の石炭・長石含む	良
93	衛生工務 部	45	包合庫	7.8 (8.7)	マツ	マツ	10YR6/6 黄 2.5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
94	衛生工務 部	45	包合庫	8.0 (2.8)	マツ	指原庄	2.5YR6/6 黄 10YR6/4 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良
95	衛生工務 部	45	包合庫	10.8 (4.6)	マツ	マツ	5YR6/6 黄 5YR6/6 黄	粗 10cm以下の石炭・長石含む	良好

図号	図名	図面	通称名	活断(Com)	外 部	内 部	色 調	地 質	備考
96	保生土層 基盤	45	SK21001	10.8 (5.7)	タテヘラミガキ	指原庄	(上=外層 下=内層) 7.5YR6/6 黄 2.5YR7/4 に近い黄褐色	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
97	保生土層 基盤	45	SK21001	10.8 (7.2)	タテヘラミガキ	指原庄・ヨコヘラミガキ	7.5YR5/1 黄褐色 7.5YR6/6 黄	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
98	保生土層 基盤	50	SK21005	33.8 (7.0)	マメツ	ヨコヘラミガキ	10YR5/2 灰黄緑 7.5YR6/3 に近い黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良好
99	保生土層 基盤	50	SK21005	30.4 (1.4)	ナデ	ナデ	7.5YR7/6 黄 7.5YR6/6 黄	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
100	保生土層 基盤	50	SK21005	20.4 (1.3)	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄緑 10YR5/1 黄褐色	やや粗 1m以下の石炭・長石・含む	良
101	保生土層 基盤	50	SK21005	20.8 (7.6)	指原庄・ナデ	ヨコヘラミガキ	7.5YR7/4 に近い黄褐色 5YR6/6 黄	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
102	保生土層 基盤	50	SK21005	24.2 (9.6)	ナデ	ヨコヘラミガキ	7.5YR6/2 灰黄緑 7.5YR6/2 灰黄緑	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
103	保生土層 基盤	50	SK21005	20.5 (3.8)	マメツ	マメツ	10YR5/8 黄褐色 2.5YR6/8 黄	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
104	保生土層 基盤	50	SK21005	22.2 (3.5)	ナデ	ナデ	7.5YR4/2 灰黄 7.5YR4/1 黄褐色	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良
105	保生土層 基盤	50	SK21005	25.2 (6.7)	マメツ	マメツ	10YR5/3 に近い黄褐色 10YR5/3 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
106	保生土層 基盤	50	SK21005	27.8 (4.6)	マメツ	指原庄	10YR5/3 に近い黄褐色 5YR5/5 黄褐色	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良
107	保生土層 基盤	50	SK21005	13.0 (9.3)	指原庄・ナデ	指原庄・ナデ	10YR7/3 に近い黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
108	保生土層 基盤	50	SK21005	5.4 (3.7)	ナデ	ナデ	5YR7/6 黄 7.5YR7/3 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
109	保生土層 基盤	50	SK21005	7.2 (4.2)	ナデ	指原庄	7.5YR6/8 黄 2.5YR6/6 黄	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
110	保生土層 基盤	50	SK21005	7.0 (3.1)	ナデ	指原庄	7.5YR4/3 灰黄 7.5YR4/4 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
111	保生土層 基盤	50	SK21005	6.6 (3.5)	指原庄	指原庄	7.5YR5/8 黄褐色 7.5YR5/8 黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
112	保生土層 基盤	50	SK21005	7.6 (5.0)	マメツ	指原庄	10YR6/2 灰黄緑 10YR4/2 灰黄緑	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
113	保生土層 基盤	50	SK21005	9.0 (3.3)	マメツ	マメツ	10YR5/6 黄褐色 10YR5/3 に近い黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
114	保生土層 基盤	50	SK21005	6.0 (5.8)	タテヘラミガキ	指原庄	7.5YR5/4 に近い黄褐色 10YR5/3 に近い黄褐色	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良好
115	保生土層 基盤	50	SK21005	10.0 (7.3)	タテヘラミガキ 指原庄	マメツ	7.5YR6/6 黄 2.5YR6/6 黄	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
116	保生土層 基盤	50	SK21005	8.5 (6.1)	マメツ	指原庄	7.5YR6/4 に近い黄褐色 7.5YR7/6 黄	やや粗 8m以下の石炭・長石含む	良
117	保生土層 基盤	55	SK21006	8.0 (6.7)	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 に近い黄褐色 10YR5/2 灰黄緑	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良好
118	保生土層 基盤	55	SK21006	1.3 (1.3)	指原庄	指原庄	5YR7/1 黄 5YR6/1 黄	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良好
119	保生土層 基盤	55	SK21010	3.4 (3.4)	マメツ	マメツ	2.5YR6/6 黄 2.5YR5/6 黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
120	保生土層 基盤	58	SK21010	3.7 (3.7)	指原庄	マメツ	10YR6/3 に近い黄褐色 10YR5/2 灰黄緑	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良
121	保生土層 基盤	58	SK21010	18.2 (2.0)	マメツ	マメツ	5YR5/3 に近い黄褐色 7.5YR5/6 黄褐色	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良
122	保生土層 基盤	58	SK21010	18.0 (5.8)	タテヘラミガキ・指原庄	ヨコヘラミガキ・指原庄	7.5YR5/4 に近い黄褐色 5YR5/4 に近い黄褐色	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良
123	保生土層 基盤	58	SK21010	22.8 (7.0)	マメツ	指原庄	7.5YR4/2 灰黄 5YR4/3 に近い黄褐色	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良
124	保生土層 基盤	58	SK21010	27.0 (8.5)	ナデ	ナデ	7.5YR6/6 黄 7.5YR6/6 黄	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
125	保生土層 基盤	58	SK21010	4.2 (4.2)	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 黄 7.5YR7/6 黄	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良
126	保生土層 基盤	58	SK21010	9.0 (3.3)	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 黄 7.5YR7/6 黄	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
127	保生土層 基盤	58	SK21010	9.8 (3.3)	ヨコヘラミガキ	ナデ	10YR3/2 黄褐色 7.5YR6/4 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良
128	保生土層 基盤	58	SK21010	8.2 (3.1)	マメツ	マメツ	5YR6/6 黄 7.5YR5/4 に近い黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
129	保生土層 基盤	58	SK21010	9.8 (4.8)	マメツ	指原庄	10YR5/4 に近い黄褐色 10YR6/4 に近い黄褐色	やや粗 4m以下の石炭・長石含む	良
130	保生土層 基盤	58	SK21010	7.4 (3.2)	マメツ	マメツ	10YR6/3 に近い黄褐色 2.5YR5/1 黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
131	保生土層 基盤	58	SK21010	6.0 (4.8)	タテヘラミガキ	マメツ	7.5YR4/6 黄褐色 2.5YR2/1 黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
132	保生土層 基盤	58	SK21010	8.7 (3.7)	タテヘラミガキ	マメツ	5YR6/5 黄 7.5YR5/3 に近い黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
133	保生土層 基盤	58	SK21010	5.2 (8.8)	タテヘラミガキ	マメツ	7.5YR5/3 に近い黄褐色 7.5YR4/2 灰黄	やや粗 1m以下の石炭・長石・含む	良
134	保生土層 基盤	58	SK21010	9.4 (5.2)	マメツ	マメツ	10YR5/6 黄褐色 10YR5/6 黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
135	保生土層 基盤	58	SK21010	5.8 (3.4)	マメツ	ナデ	7.5YR6/6 黄 7.5YR4/2 灰黄	やや粗 2m以下の石炭・長石含む	良
136	保生土層 基盤	58	SK21010	7.2 (4.8)	マメツ	マメツ	5YR6/6 黄 10YR5/2 灰黄緑	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
137	保生土層 基盤	58	SK21010	8.0 (2.8)	マメツ	マメツ	7.5YR5/8 黄褐色 5YR4/6 黄褐色	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
138	保生土層 基盤	58	SK21010	5.4 (1.9)	マメツ	指原庄	10YR6/2 灰黄緑 10YR4/2 灰黄緑	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良好
139	保生土層 基盤	60	SK21011	10.8 (2.8)	ナデ	ナデ	2.5YR7/1 黄褐色 10YR5/2 灰黄緑	やや粗 5m以下の石炭・長石含む	良
140	保生土層 基盤	60	SK21011	18.4 (2.2)	ナデ	ナデ	2.5YR2/2 灰黄 2.5YR2/2 灰黄	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良好
141	保生土層 基盤	60	SK21011	17.8 (4.1)	ナデ	ナデ	2.5YR7/3 黄褐色 2.5YR2/2 灰黄	やや粗 1m以下の石炭・長石含む	良好
142	保生土層 基盤	60	SK21011	18.0 (6.3)	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 に近い黄褐色 10YR7/4 に近い黄褐色	やや粗 3m以下の石炭・長石含む	良
143	保生土層 基盤	60	SK21011	18.0 (7.4)	タテヘラミガキ・指原庄	ヨコヘラミガキ・指原庄	7.5YR5/3 に近い黄褐色 10YR5/2 灰黄緑	やや粗 3m以下の石炭・長石・黄鉄石含む	良

図号	階層	用途	面積(m ²)	外 面	内 面	色 澤 (上=外側、下=内側)	地 土	備考
144	衛生土廊	60	SK21011	19.8	(5.0)	板ナシ	7.5YR4/2 灰褐色	やや硬
145	衛生土廊	60	SK21011	21.7	5.5	30.7	7.5YR5/3 に近い黄褐色	30cm以下の石炭・長石・雲母を含む
146	衛生土廊	60	SK21011	6.9	(5.6)	ナシ	10YR5/4 黄褐色	やや硬
147	衛生土廊	60	SK21011	20.4	(6.0)	ナシ	2.5YR5/4 に近い黄褐色	30cm以下の石炭・長石を含む
148	衛生土廊	62	SK21012	10.7	(2.1)	ナシ	10YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
149	衛生土廊	64	SK21013	19.8	(3.9)	ナシ	7.5YR7/6 黄褐色	40cm以下の石炭・長石を含む
150	衛生土廊	64	SK21013	20.0	(8.3)	ナシ	7.5YR5/3 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石・雲母を含む
151	衛生土廊	66	SK21014	22.8	(4.3)	ナシ	10YR5/3 暗褐色	やや硬
152	衛生土廊	66	SK21014	22.8	(2.4)	マゾ	7.5YR5/4 に近い黄褐色	やや硬
153	衛生土廊	66	SK21014	16.6	(6.0)	ナシ	5YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
154	衛生土廊	66	SK21014	29.8	(6.0)	ナシ	7.5YR4/2 灰褐色	硬
155	衛生土廊	68	SK21014	17.2	(8.1)	ナシ	10YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
156	衛生土廊	68	SK21014	19.9	(11.5)	ナシ	2.5YR5/6 暗褐色	やや硬
157	衛生土廊	68	SK21014	14.7	(3.7)	マゾ	5YR4/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
158	衛生土廊	68	SK21014	18.8	(13.5)	ナシ	7.5YR6/6 黄褐色	やや硬
159	衛生土廊	68	SK21014	15.4	(12.2)	マゾ	7.5YR6/6 黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
160	衛生土廊	68	SK21014	15.9	(14.9)	マゾ	5YR6/6 黄褐色	やや硬
161	衛生土廊	68	SK21014	16.4	(12.7)	マゾ	7.5YR7/6 黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
162	衛生土廊	68	SK21014	17.0	(13.7)	ナシ	7.5YR5/3 に近い黄褐色	やや硬
163	衛生土廊	68	SK21014			ナシ	7.5YR5/3 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
164	衛生土廊	68	SK21014	16.4	(14.7)	マゾ	5YR5/6 暗褐色	やや硬
165	衛生土廊	68	SK21014	8.7	(8.6)	ナシ	5YR5/6 暗褐色	30cm以下の石炭・長石・角閃岩を含む
166	衛生土廊	68	SK21014	5.9	(9.1)	ナシ	5YR5/6 暗褐色	30cm以下の石炭・長石・雲母を含む
167	衛生土廊	68	SK21014	9.0	(4.3)	マゾ	7.5YR6/6 黄褐色	やや硬
168	衛生土廊	68	SK21014	4.8	(2.7)	ナシ	10YR7/4 に近い黄褐色	30cm以下の石炭・長石を含む
169	衛生土廊	68	SK21015	19.8	(12.0)	ナシ	2.5Y5/7 暗褐色	硬
170	衛生土廊	69	SK21016	26.8	(7.1)	ナシ	7.5YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
171	衛生土廊	69	SK21016	17.0	(3.6)	マゾ	7.5YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石・雲母を含む
172	衛生土廊	69	SK21016	40.0	(6.0)	ナシ	5YR6/6 黄褐色	やや硬
173	衛生土廊	69	SK21016	23.6	(1.5)	マゾ	10YR6/2 暗褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
174	衛生土廊	69	SK21016	22.0	(4.5)	マゾ	7.5YR4/4 黄褐色	やや硬
175	衛生土廊	69	SK21016	25.0	(5.0)	マゾ	7.5YR5/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
176	衛生土廊	69	SK21016	12.4	8.7	13.4	5YR5/6 暗褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
177	衛生土廊	69	SK21016	8.3	(1.5)	マゾ	2.5YR7/4 暗褐色	30cm以下の石炭・長石を含む
178	衛生土廊	71	SK21017	44.4	(7.7)	マゾ	10YR7/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
179	衛生土廊	71	SK21017	28.0	(2.3)	マゾ	5YR5/6 暗褐色	硬
180	衛生土廊	71	SK21017	28.4	(3.0)	ナシ	7.5YR5/6 暗褐色	10cm以下の石炭・長石を含む
181	衛生土廊	71	SK21017	5.0	(4.3)	ナシ	7.5YR6/6 黄褐色	やや硬
182	衛生土廊	71	SK21017	4.4	(4.6)	ナシ	7.5YR6/6 黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
183	衛生土廊	73	SK21018	18.0	(8.0)	ナシ	10YR5/6 暗褐色	やや硬
184	衛生土廊	73	SK21018	15.4	(9.3)	ナシ	10YR6/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
185	衛生土廊	73	SK21018	15.4	(9.3)	ナシ	10YR7/3 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
186	衛生土廊	73	SK21018	17.8	(5.3)	マゾ	10YR6/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
187	衛生土廊	73	SK21018	25.5	31.6	マゾ	7.5YR7/4 に近い黄褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
188	衛生土廊	73	SK21018	21.2	(3.0)	マゾ	10YR6/4 暗褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
189	衛生土廊	73	SK21018	17.8	(7.7)	マゾ	2.5YR7/2 暗褐色	10cm以下の石炭・長石を含む
190	衛生土廊	73	SK21018	25.5	31.6	マゾ	7.5YR7/2 暗褐色	20cm以下の石炭・長石を含む
191	衛生土廊	73	SK21018	17.8	(8.0)	マゾ	10YR6/4 暗褐色	20cm以下の石炭・長石を含む

番号	基 礎	深度	遺構名	深さ(m)		外 観	内 面	色 調	地 質	地 質
				口内	底面					
192	弥生土層 底面	85	SK21028	5.4	(2.2)	マメツ	マメツ	10YR7/3 に近い黄褐色 10YR5/1 黒褐色	礫	30cm以下の石炭・黒石含む
193	弥生土層 底面	85	SK21029	7.6	(2.4)	ナデ	ナデ	2.5YR6/8 黒 7.5YR7/6 黒	礫	20cm以下の石炭・黒石含む
194	弥生土層 底面	85	SK21028	4.6	(3.4)	マメツ	マメツ	5YR5/6 暗赤褐色 5YR4/6 黒褐色	やや粗	20cm以下の石炭・黒石含む
195	弥生土層 底面	86	SK21029	7.6	(3.7)	マメツ	弥生土のちナデ 埋藏物	2.5YR5/4 に近い赤褐色 10YR5/4 に近い黄褐色	やや粗	20cm以下の石炭・黒石含む
196	弥生土層 底面	86	SK21029	6.0	(5.8)	ナデヘラミガキ	マメツ	5YR4/3 に近い赤褐色 10YR5/2 暗赤褐色	やや粗	10cm以下の石炭・黒石含む
197	弥生土層 底面	91	SD21004	5.6	(2.5)	マメツ	マメツ	7.5YR7/4 に近い黒 7.5YR7/4 に近い黒	やや粗	10cm以下の石炭・黒石含む
198	弥生土層 底面	95	SP21084	18.4	5.9	ナデヘラミガキ	ナデヘラミガキのち黒コヘラミガキ	5YR5/6 暗赤褐色 7.5YR4/2 灰褐色	やや粗	20cm以下の石炭・黒石・黄褐色含む
199	弥生土層 底面	95	SP21086	8.9	8.2	ナデハケのちナデヘラミガキ 黄褐色3条・黒赤文3条・埋藏物	埋藏物・ナデハケ	5YR5/4 に近い赤褐色 5YR5/6 黒	やや粗	20cm以下の石炭・黒石含む
200	弥生土層 底面	95	SP21086	11.3	(4.5)	ナデ	埋藏物	10YR6/3 に近い黄褐色 10YR6/2 暗赤褐色	やや粗	20cm以下の石炭・黒石含む

石器観察表

番号	品名	種類	遺構名	法量(cm)			重量(g)	石材	特徴
				長さ	幅	厚			
51	片石	30	包合層	19.5	9.6	1.3	291.6	サヌカイト	薄い刃部、裏材切片。
52	片石	30	包合層	17.6	14.6	2.8	700.0	サヌカイト	裏材切片、自然面を残す。
53	石核	31	包合層	4.2	2.3	0.4	2.2	サヌカイト	基部欠損、やや大型の石核、両面より調整。
54	石核	31	包合層	2.9	1.9	0.2	1.3	サヌカイト	平基式、基部部を欠く、両面より調整。
55	石核	31	包合層	3.2	2.2	0.3	4.3	サヌカイト	両面より細かく調整。
56	石小刀	31	包合層	7.1	3.8	0.9	22.9	サヌカイト	側縁部に自然面を残す。刃部は片面より調整。
57	石小刀	31	包合層	4.4	4.8	1.1	20.2	サヌカイト	刃部は片面より調整。
58	石小刀	31	包合層	3.7	3.1	1.0	11.3	サヌカイト	背面の一部のみ残る。
59	石小刀	31	包合層	3.0	4.1	0.5	6.3	サヌカイト	側縁部のみ残る、わずかに欠けあり。
60	石小刀	31	包合層	3.7	3.4	0.9	9.8	サヌカイト	背面のみ残る。
61	石小刀	31	包合層	1.9	3.1	0.6	3.4	サヌカイト	側縁部のみ残る、欠けあり。
62	石小刀	31	包合層	5.2	4.6	0.8	17.8	サヌカイト	刃部、背面とも両面より調整。
63	石小刀	31	包合層	4.6	5.2	1.6	42.2	サヌカイト	両面より細かく調整。
64	石小刀	31	包合層	6.6	3.8	0.8	20.2	サヌカイト	側縁部に自然面を残す。
65	石小刀	31	包合層	9.0	5.6	1.2	94.3	サヌカイト	両面より調整、平分残る。
66	石小刀	31	包合層	5.3	3.8	0.6	17.6	サヌカイト	全面白色風化、刃部は片面より調整。
67	石小刀	31	包合層	4.8	3.0	1.2	21.6	サヌカイト	両面より調整、背面に自然面を残す。
68	石小刀	31	包合層	1.9	2.0	0.7	2.2	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
69	石小刀	31	包合層	2.0	2.2	0.7	5.1	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
70	石小刀	31	包合層	2.6	2.5	0.6	4.6	サヌカイト	刃部の一部のみ残る。
71	石小刀	31	包合層	4.2	3.7	0.7	8.8	サヌカイト	切片を利用しわずかに刃部をつくる。
72	石小刀	31	包合層	2.7	4.3	0.6	5.5	サヌカイト	片面より調整。
73	石小刀	31	包合層	4.0	5.0	0.5	15.1	サヌカイト	切片を利用し刃部をつくる。
74	石小刀	31	包合層	5.1	4.6	1.0	30.3	サヌカイト	切片を利用し刃部をつくる。
75	石小刀	31	包合層	8.0	5.1	0.9	64.2	サヌカイト	切片を利用し刃部をつくる。
76	石小刀	31	包合層	3.5	2.9	1.3	10.1	チャート	定形品。
77	大型片石	32	包合層	6.2	6.7	2.8	142.7	花崗岩	基部の一部のみ残る。
78	大型片石	32	包合層	14.6	5.3	3.8	442.3	花崗岩	先端欠ける。
79	大型片石	32	包合層	5.3	5.3	4.0	136.0	緑泥片岩	刃部のみ残る。調整あり。
80	片石	33	包合層	3.0	5.4	3.0	76.0	砂岩	上面に磨痕あり。
81	片石	33	包合層	4.8	6.3	4.0	204.0	砂岩	両面より調整。
82	片石	33	包合層	11.8	14.6	5.0	1200.0	砂岩	両面より調整、両面より調整。
83	片石	35	SP21002	6.1	5.0	1.0	26.8	サヌカイト	切片を利用し刃部をつくる。
84	片石	35	SP21248	16.7	16.7	5.0	2400.0	砂岩	中央部がやや凹む。
85	片石	38	SP21244	20.1	19.0	4.0	1300.0	花崗岩	中央部がやや凹む。調整あり。
86	片石	43	SP2178	2.7	1.1	0.5	1.0	サヌカイト	定形品、凹基式、両面より細かく調整。
87	石小刀	45	SK21001	8.0	4.8	1.2	40.6	サヌカイト	刃部は両面より調整、自然面を残す。
88	石小刀	45	SK21001	3.2	4.0	1.5	17.6	サヌカイト	背面の一部のみ残る。
89	石小刀	45	SK21001	3.9	4.5	1.5	23.0	サヌカイト	基部のみ残る。
90	石小刀	50	SK21005	11.2	8.5	7.7	1200.0	砂岩	両面より調整、両石として利用か？
91	石小刀	52	SK21006	4.4	3.2	0.5	5.5	サヌカイト	小切片を利用した未製品。
92	石小刀	53	SK21008	5.9	3.7	0.8	10.2	サヌカイト	欠けを残す。
93	石小刀	56	SK21008	2.6	1.8	0.8	3.5	サヌカイト	一部に調整痕あり。
94	石小刀	58	SK21010	3.8	2.3	0.4	1.7	サヌカイト	凹基式、調整痕を欠く。
95	石小刀	58	SK21010	3.3	3.0	0.7	8.5	サヌカイト	一部に調整痕あり。
96	石小刀	58	SK21010	7.3	4.9	1.8	59.2	サヌカイト	4方向に調整痕あり。
97	石小刀	60	SK21011	5.6	1.9	0.5	5.1	サヌカイト	調整と調整部の境が明確でない。
98	石小刀	60	SK21011	4.9	2.9	1.0	17.6	サヌカイト	背面のみ残る。
99	石小刀	66	SK21014	11.0	6.3	2.7	175.6	サヌカイト	両面に自然面を残す。
100	石小刀	66	SK21014	1.5	1.4	0.3	0.5	サヌカイト	定形品、凹基式、両面より細かく調整。
101	石小刀	66	SK21014	2.1	1.8	0.8	2.9	サヌカイト	全面に自然風化、定形品、平基式。
102	石小刀	68	SK21014	3.9	1.8	0.5	2.8	サヌカイト	定形品、凹基式。
103	石小刀	68	SK21014	3.4	3.6	1.2	6.2	サヌカイト	両面より調整、白色風化。
104	石小刀	68	SK21014	1.9	2.9	1.0	5.0	サヌカイト	両面より調整をつくる。背面は両面より調整。
105	石小刀	71	SK21017	3.3	4.2	0.8	8.7	サヌカイト	刃部は両面より細かく調整。
106	石小刀	74	SK21017	5.9	3.0	1.2	16.9	サヌカイト	刃部は両面より調整。
107	石小刀	71	SK21017	4.7	6.2	1.0	22.8	サヌカイト	全面白色風化、一部調整痕あり。
108	石小刀	80	SK21020	5.5	8.8	1.0	36.8	花崗岩	両面より調整。
109	石小刀	85	SK21020	3.0	1.9	0.5	2.3	サヌカイト	定形品、凹基式、両面より細かく調整。
110	石小刀	90	SP21043	3.0	3.7	0.8	6.1	サヌカイト	一部のみ残る。
111	石小刀	96	SP21043	2.1	1.5	0.4	0.8	サヌカイト	凹基式、調整痕を欠く。未製品か？
112	石小刀	96	SP21043	2.9	1.7	0.7	2.1	サヌカイト	定形品、側部は太くて短い。
113	石小刀	96	SP21102	7.4	1.0	0.4	1.1	サヌカイト	凹基式、先端部を欠く。
114	石小刀	96	SP21209	3.4	3.7	0.7	6.5	サヌカイト	側縁部のみ残るが半月形を呈すると考えられる。
115	石小刀	96	SP21216	5.2	4.3	0.8	18.1	サヌカイト	表面は磨痕が散見、背面は調整あり。

写 真 图 版



写真1 調査区全景(南から)



写真2 I区第2遺構面全景(南西から)



写真3 I区第2遺構面完掘状況(南西から)



写真4 II区完掘状況(北西から)



写真5 SH12001完掘状況(北から)



写真6 SB11001完掘状況(南から)

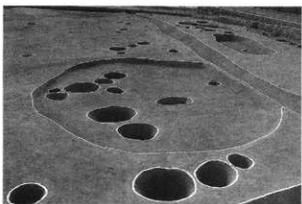


写真7 SH21001完掘状況(北東から)

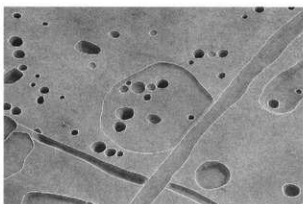


写真8 SH21001完掘状況(北西から)

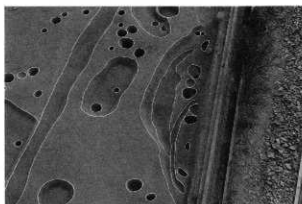


写真9 SH21002・SH21003完掘状況(北から)



写真10 SH21002・SH21003完掘状況(南から)

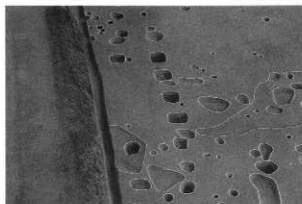


写真11 SB21001完掘状況(西から)



写真12 SB21001完掘状況(北西から)

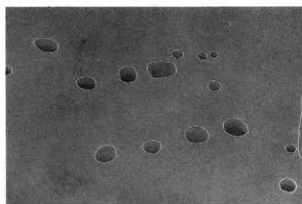


写真13 SB21003完掘状況(南から)



写真14 SK21001土器出土状況(北西から)



写真15 SK21001土器出土状況(北東から)



写真16 SK21001土器出土状況(南から)



写真17 SK21001土器出土状況(東から)



写真18 SK21001土器出土状況(東から)



写真19 SK21005土器出土状況(北東から)



写真20 SK21005土器出土状況(西から)



写真21 SK21005土器出土状況(北から)

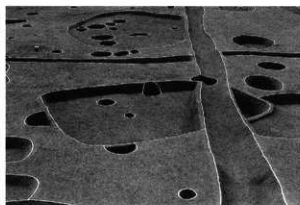


写真22 SK21008発掘状況(北から)

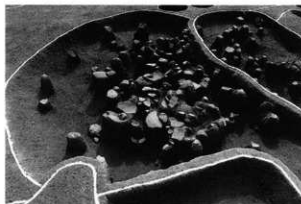


写真23 SK21010土器出土状況(北から)



写真24 SK21010土器出土状況(北東から)



写真25 SK21011土器出土状況(北東から)

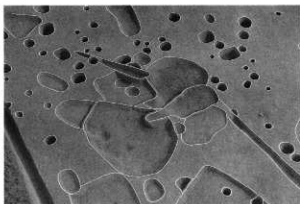


写真26 土器群完掘状況(北西から)



写真27 土坑群完掘状況(北東から)



写真28 SK21013土器出土状況(南西から)

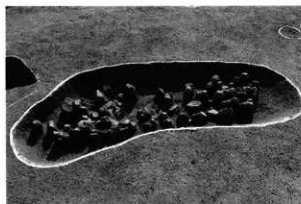


写真29 SK21014土器出土状況(北から)



写真30 SK21016土器出土状況(南東から)



写真31 SK21016土器出土状況(西から)



写真32 SK21017完掘状況(南東から)

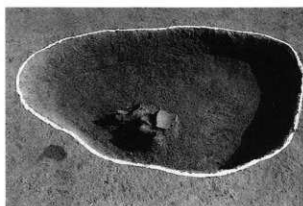


写真33 SK21018土器出土状況(西から)



写真34 SK21018土器出土状況(東から)



写真35 SD21001完掘状況(北から)

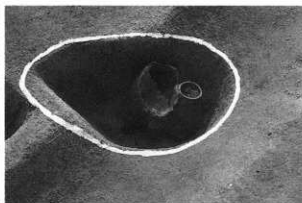


写真36 SP21086土器出土状況(北西から)



写真37 SP21086土器出土状況(北西から)



写真38 SP21086土器出土状況(北から)



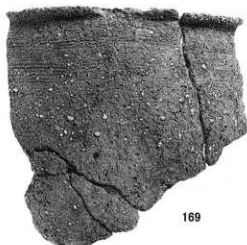
写真39 SP21086土器出土状況(北から)



写真40 作業風景(西から)



143



169



102



150



142



6

写真41 出土遺物①



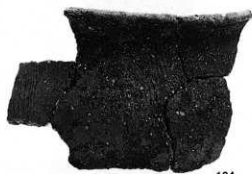
31外面



63



31内面



184



2



163



88



4

写真42 出土遺物②



83



162



5



76



183



49



50



176

写真43 出土遺物③



8



107



7



190



170



155外面



155内面

写真44 出土遺物④



S16



S26



S58



S34



S29



S32



S28



S35

写真45 出土遺物⑤



S2



S49



S1



S37



S50



S4



S59



S51



S63



S3



S44



S52

写真46 出土遺物⑥

報 告 書 抄 錄

ふりがな	おくのほういせきぐんⅤ（おくのほういせきⅠ・Ⅱく）							
書名	奥の坊遺跡群Ⅴ（奥の坊遺跡Ⅰ・Ⅱ区）							
副書名	高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第5冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第97集							
編著者名	大嶋 和則							
編集期間	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2636							
発行年月日	西暦2006年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	しよざいち 所在地	コード		北緯 ° / ' / "	東経 ° / ' / "	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくのほういせき 奥の坊遺跡	おののほういせき 香川県 たかまつし 高松市 たかまつしやう 高松町	37201		34° 19' 30"	134° 07' 30"	1998.9.14 ～ 1999.2.19	1,900㎡	高松市東部運動公園（仮称）整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
奥の坊遺跡	集落	弥生		竪穴住居跡 土坑		弥生土器、石器		
		古代		掘立柱建物跡 溝		土師器、須恵器		
		近世		土坑 旧河道		陶磁器		
要約	奥の坊遺跡は高松平野の東を面する丘陵部に所在する。南向きの緩斜面に営まれた弥生時代中期前半の集落跡で、古代や近世の遺構も見られる。本書では、遺跡南端部のⅠ・Ⅱ区を報告した。Ⅰ・Ⅱ区では弥生時代中期前半の竪穴住居跡3棟をはじめ、土坑等多数の遺構を検出した。古代では、山田郡北部のみに見られる異方位条里地割及び、その方位に合致した掘立柱建物跡を検出した。							

高松市東部運動公園（仮称）整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第5冊

奥の坊遺跡群Ⅴ

（奥の坊遺跡Ⅰ・Ⅱ区）

平成18年12月28日

編 集	高松市教育委員会
	高松市番町一丁目8番15号
発 行	高松市教育委員会
印 刷	総合印刷ワークステーション有限会社